

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	永町 友恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	聖書を学ぶことが初めての学生にも、分かりやすくなるように準備いたしました。インターネットの教材も取り入れながら、視覚的に説明するために、ユーチューブなどの教材も積極的に取り入れました。また教会音楽を多く取り入れ聴覚的にもキリスト教会の雰囲気味わえるように工夫し、色々なジャンルの教会音楽を紹介しました。さらに聖書の言葉を信じた、キリスト者の人生からも学べるように何人かの人物を紹介して学んでいただきました。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績は前期よりも厳しく採点しました。そのことで、大学の講義だという自覚を持たせました。対面の講義は、ネット講義よりもキリスト教学にとっては講義しやすかった。しかし学生から質問を受けることは、ほとんどありませんでした。課題提出の時に質問した学生には、その場で返答できましたし、学生共通の質問や誤解している場合は、次の講義の冒頭で説明しました。またキリスト教、そして聖書の入門的な位置づけの講義ですので、授業だけで完結するようにプログラムを組み立てました。今後はさらに図書館に多くのキリスト教関係の書物があることの紹介や、さらなる学びの方向性についてもアピールできたらと思います。最後にキリスト教会との礼拝の体験をできたことは素晴らしいのではないのでしょうか。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この講義の目的は、実際に聖書を手に取り、読んでもらうこと。そして聖書の全体像をつかんでもらう。さらに、この西南女学院大学の創立精神がこの聖書の中にあることを知ってもらうことです。後期は新約聖書を学ぶことでしたので、イエス・キリストとはどのような存在なのか、聖書の人物はどのような人生を経験したのか。またキリストの教えが世界にどのように影響を与えたかを知っていただくことでした。しかし聖書にあまり興味のない学生がいたことは事実です。その方々に色々なジャンルの教会音楽を通して、キリスト教学に興味を持って頂けるようにアピールしました。またこのコロナ禍にあって学生たちが不安を持つ中で、講義の最初の祈り、心休まる体験もできたと思います。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1年目はオンライン講義であり、2022年度は、対面初年度の講義でした。事前に講義ノートを準備して、講義前に配りました。昨年度の講義のカリキュラムを全体的に見直し、より良い講義を進められるように改善しました。この講義は知的面だけの学びではないので、実際に教会の礼拝に参加することや、大学のチャペルをリアルに参加することができたら、より講義の内容が理解できるのではないかと思います。賛美や講義のまとめたものを、最大限ユーチューブなどから教材を選び視覚的に見せられたことは良かったと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	2022年度は改善されたとは言え、新型コロナウイルスの影響があり、チャペルも半分はオンラインでした。しかし学生たちが教会の礼拝に実際に参加できました。また昨年度のオンライン講義のやり方を踏まえながら、学生たちに、神、イエスさま、そして聖書のすばらしさを講義で感じていただけたのではないかと思います。またキリスト者の社会的貢献から学び、弱さを覚える方々がキリストにあって生き生きと生活した姿をお知らせすることもできました。また福祉の精神がキリスト教の精神とも共通性があることも学んでいただけたと思います。そして聖書の中の女性にスポットを当て、女子大の学生に聖書登場人物に対して近さを感じていただきました。さらにこのキリスト教の信仰で、この西南女学院大学が創立されたことを分かち合うことができました。しかし大学の講義ですから、さらなるキリスト教学、聖書の学びに進めるよう、学生たちに今後紹介していきたいと思います。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名称の通り、西南女学院とキリスト教との関わりに重点を置き、オムニバスで講義を行った。西南女学院の歴史的転換点においての内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選し、キリスト教の日本への伝来から西南女学院を創立・発展させた宣教師やクリスチャンの働きについてまで8回にわたり紐解いた。宗教主任補佐のラス・ボーグ先生は本学院の歴史的研究をされており、アメリカに現存する貴重な資料をもとに、草創期の宣教師の働きについて3回にわたる講義を担当された。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心にかかれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優、あるいは秀であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP：この科目は総合人間学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考ええる。 DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4－1に相当しており妥当と考える。 上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。 なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は4.0を超えていた。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	大人数の対面授業ではあるが、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は47名、回答率は62.7%であった。学生の受講動機は「必修科目である」が100%、「単位数を確保する」が12.8%であった。この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(4回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は3名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、大学における学びで必要不可欠である「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル（90点以上）に達した学生は22名と昨年よりやや減少した。また、出席数不足は1名いたほか、再試験対象者は5名であった。再試験対象者の発生は2年ぶりだが、その原因は課題の未提出と欠席回数の多さにある。到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値は4.1であり、平均値が3.8であった「職業選択の選考になった」を除き、その他の項目も平均値はいずれも4.0を示していた。全体的に昨年度並みの数値を示している。学習量について、授業の準備を行った回数が0回が15名、1回が10名いた一方、6回も11名おり、学生間のばらつきが大きくなっている。図書館等の利用については、図書館の図書、雑誌を利用した学生は27名と回答者の半数を超え、学術データベースを利用した学生も17名にのぼった。これは、図書館の使い方についての講義を行った効果も大きいと考える。なお、インターネットを利用した学生は34名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であるとする。②DP,行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値がともに4.3、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が4.2、「説明は理解しやすいものであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がともに4.1であり、昨年度より0.1～0.2数値が低下している。他方、学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は21名と昨年度より大幅に増加し、1回以上は復習を行っていた学生は減少した。なお、6回以上した学生は8名であった。授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は21名であり、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「インターネットで調べた」、「図書館で関連する本を多く読んだ」、「配布資料を見返した」、「レポートの書き方について学んだ」などが挙げられていたが、これらはいずれも授業の課題と密接に関連する学習でもある。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった学生も37名と、昨年度より割合が増加している。その理由については、「課題でいっぱいだったから」との回答が多かったほか、「時間がなかったから」、「何に取り組めばいいかわからなかった」、「授業の内容で十分だと感じたから」との回答も見られた。学生の意見については、「先生が変わる度にさまざまなテーマがあって新鮮で楽しかったです」と、この授業形態を肯定的に評価する意見のほか、「レポートの書き方についてや、自分の言葉でわかりやすく表現する方法について教えていただくことができてとてもためになりました」、「説明がわかりやすく、本を読むことで語彙を広げたい」との意見があった一方、「先生の話が長かったために残りの時間が短くて友達がプレゼンを十分に発表することができず、友達が「時間がなくて悔しかった」と言っていました。もう少し端的に話してプレゼンの時間を十分に確保できるようにされたら後期で悔しいと思う人は出ないのではないかと思います」との回答が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この科目においては、全学共通の総合人間科学科目として「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いたが、当初の目標はおおむね達成できたと言える。後期に行われる「初年次セミナーII」ではこの科目において培った各技能を基に、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指し、「初年次セミナーI」「初年次セミナーII」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身に付けることを目指す。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業においては、学生の興味・関心を引きつけられるように、健康・体力に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。また、健康・体力に関する最新のエビデンスを紹介した。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は72.9（±11.3）点でであった。成績分布別にみると、90点以上が8.1%、89～80点が21.6%、79～70点が27.0%、69～60点が40.5%であった。ほとんどすべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち29.7%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」では、「かなりそうだと思う」が41.9%、「わりにそうだと思う」が34.9%、「まあまあそうだと思う」が20.9%と、ほぼすべて（97.7%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という質問で、「かなりそうだと思う」が48.8%、「わりにそうだと思う」が34.9%、「まあまあそうだと思う」が20.0%と、ほぼすべて（97.7%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。また、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問では、「かなりそうだと思う」が32.6%、「わりにそうだと思う」が41.9%、「まあまあそうだと思う」が23.3%と、ほぼすべて（97.7%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「自分なりの目標を達成した」および「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価では、ほぼすべての学生が肯定的な回答を行っていたことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」以外の質問では、平均値が4.1～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考えるが、授業時間内において学生がもう少し主体的に学ぶ時間を設けたいと考えている。 学習量の評価では、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」の質問について、「していない」が76.7%、「取り組んだ」が23.3%と、多くの学生が授業課題以外の学習に取り組んでいなかった。授業課題以外の学習で、学びを深めることの必要性や楽しさを伝えることによって、学生の学びの意欲を高めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後はさらに学生が内容を理解しやすくなるような工夫と、学習に対する動機づけをさらに行なっていく。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.8（±9.2）点であった。成績分布別にみると、90点以上が25.4%、89～80点が40.3%、79～70点が22.4%、69～60点が10.4%、60点未満が1.5%であった。ほとんすべての学生が標準的レベルに達しており、65.7%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が42.5%、「わりにそうだと思う」が37.5%、「まあまあそうだと思う」が17.5%とほぼすべて（97.5%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.2）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が32.5～42.5%、「わりにそうだと思う」が35.0～37.5%、「まあまあそうだと思う」が17.5～22.5%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.9～4.2）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が37.5%、「わりにそうだと思う」が30.0%、「まあまあそうだと思う」が25.0%と、ほとんど（92.5%）の学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「女性と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.9～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中にはウォーキングや筋力トレーニング、ストレッチなどを行っていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かし、健康の維持・増進に努める学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
共生社会とジェンダー	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多いことから、アクティブラーニングを実施するにあたって、漫画やアニメ、ネット上の映像、ニュースや映画の予告、CMなどを新しい動画を教材として準備した。学生にもその旨シラバスに記載し、身近なテーマから授業に関心を持てるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、最終授業の中でジェンダーを原因とする格差が解消した未来の共生社会を新聞記事として表現し、これに対し「ジェンダーの視点」を理解し、当事者性のある課題をどこまで社会的解決に結びつけるかを採点の基準とした。新聞作成はグループの作業となったので、個別の評価は各回の授業の感想において、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることのできるかを加えた。ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていたが、これまでの思い込みから脱却の難しい学生も見受けられた。新聞作成においては、グループで個性が際立ち、文章力、情報収集力など特徴が異なるため、ジェンダーをめぐる課題を社会構造と結び付けられているか、意欲関心が表現されているかを評価した。基本的に、テーマに関心の高い学生が集まっており、基準には到達していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	新聞記事として表現された内容から、ジェンダーをめぐる現状に社会的解決が必要であること、それ実現するために求められる施策などへの理解は達成できたといえる。また、思考判断や意欲関心についても達成されており、おおむね内容的妥当性は認められる。ただし、関心の高いテーマ（例えばLGBTなど）へは考察が深い、より多様な人々との共生をジェンダーの視点から総合的に捉える力が不十分な学生も見受けられた。ただ、グループ討議などで他者の意見を聞くことで、おおむね新たな気づきにつながっていたと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業を対面で実施し、グループ討議がより活発に行われた。自分自身の意見を述べることや他者の意見を聴くことに、楽しさを見出していた。特に、学科を超えてグループを作ったので、通常では話せない学生同士で思わず深い話ができただった場合もあった。一方的な講義より、理解が深まったものと思われる。毎回、発表する担当者を決めて、またグループで発表内容を検討するなどして、主体的な学びの場となった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	ジェンダーや共生社会という概念については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。身近な問題を政治や経済と関連する理解へと結びつけることは、継続的な課題である。最終回で新聞作成をした。昨年度は授業評価アンケートで作成時間が足りないという意見があったが、今年度は、他のグループの作品を見る時間も確保した。他のグループに対しても感想を提出させ、より分析的に振り返りができたようだ。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部の教育への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。 受講動機には「必修科目である」が100.0%となっており、初学者である受講生にはシラバスのみでは、授業の意図する部分については理解されにくいことが考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、86.9点、再試対象者は1名であった。標準的レベルに達した者98.6%、内、理想的レベルに達した者90.4%であった。 目標別にみると、知識理解は94.5%、関心意欲は80.1%、態度は90.0%であった。 到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.2であり、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」が4.1、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」が4.0であり、科目の教育目的は一定の成果が出ていると評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、保健福祉学部の教育を学ぶにあたっての必修の導入科目である。 到達度自己評価および最終的な成績評価からも科目の目的は、果たしていると判断でき、内容的にも妥当であると考える。 ②DP行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解、意欲関心及び態度に位置付けられた科目である。知識理解は94.5%、関心意欲は80.1%、態度は90.0%であり、概ね内容的には妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」については、4.1であるが、「説明は理解しやすいものであった」が4.0となっている。全学科の学生が理解を深める講義となるよう担当する教員で共有し検討したい。 自由記述では、3学科合同講義の意義を理解し知識を深めることができたことや見聞を広めることができ、これからの学びに関心が深まった等の意見が寄せられていることは、保健福祉学の導入科目としての目的を果たしている考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。 学生が4年間の学びのスタートとして、保健福祉学への理解と関心を高める科目としての目的を果たせるよう、担当する教員とさらなる充実を目指したいと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①講義内容は、高校で学ぶ生物の基礎知識をもとに学科特性に合わせヒトの生体に焦点をあてたものとした。生体の正常なものと異常（疾患）を組み合わせ、事例を展開しながら講義を行った。 ②講義内容を整理するための「ポイント整理の提示」は、主体的な学習を促す意味で実施した。今年度は、Classroomにも掲載し学生がいつでも取り組めるようにした。また、「ポイントの整理」と「小テスト」を組み合わせることで学生の学習姿勢を把握した。 ③講義開始時には、前回の講義内容の復習を行い、また、講義資料を使って学生に自ら発表させる場、質問を受ける場を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①総合評価の平均値は81点（±12.0）で、87.5%の学生が標準的レベル（70点以上）に達し、理想的レベル（80点以上）に達した学生は50%であった。小テストの平均点は16/20点（得点率80%）、提出課題の平均点は9.5/10点（得点率95%）だった。 ②学生の到達度自己評価では"自分なりに目標を達成した4.3"、"新しい知識など得ることができた4.9"、"事象を理解する視点を獲得することができた4.5"であった。また"専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた"とする自己評価平均値は4.5だった。 ③授業の質評価では、"テストの評価基準や課題の明確さはともに4.9"、"説明の理解しやすさ4.6"、"質問を受ける機会を設けていた4.8"と、授業改善に一定の効果が認められた。 ④学習量の評価は、1回30分の予習・復習を2～3回以上した学生が38・50%、また、課題以外に学習に取り組んだ学生が80%いた。「講義の復習を教科書などで復習した」、「ルーズリーフにまとめた」などの意見があった。 ⑤図書館で図書・雑誌を利用した学生は63%、インターネットを使った検索は75%だった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 大学で学ぶ生物学として、専門科目を意識した科目内容及び1年生を対象にした一般教養科目としてのカリキュラム上の位置付けは妥当であるとする。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 上記に記載した学生の自己評価や成績の状況から、学生が学ぶ内容としては妥当であったと思われる。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であるといえる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の総合評価では、87.5%が理想的レベルに達している。加えて、上記に記載した質評価も昨年と同様に一定の水準を担保していることから、今までの授業改善を継続し行なっていく。 ②教員による講義後、その講義内容を学生に発表させる場を設けることで、学生間で学びの習熟度をあげる工夫をしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	一般教養科目としての位置づけと学科特性を踏まえた講義内容は、達成度状況・授業評価から講義目標は達成できた。標準レベルに達した学生が多く見られたこと、積極的に授業に参加する姿勢が認められたことから授業改善の成果は得られたと考える。今後も学生のモチベーションをあげつつ興味を持って講義に参加できるような取り組みを継続し実施する。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまでの年度と同様に、1年生、全学対象、かつ苦手な学生の多い数学ということであり、また、受講の動機からも、基本的には興味関心よりは単位取得を目的として受講している科目であるため、内容理解へのモチベーションを上げる必要から、テーマを身近なものにすることを特に意識した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業アンケートの結果からも到達度自己評価において平均的に3～4程度の結果になっており、ある程度達成できたとは考えている。ただ、事前に成績計算方法（毎回の課題の重視）を提示していたにもかかわらず、毎回の課題の提出率が想定よりも低く、結果的に再試験に該当する学生が全体の1/3程度出てしまった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は特定の学科のカリキュラムに関連すると言うよりは、全学共通の教養科目であるため位置づけは難しいが、学習到達度について概ね達成されたと評価できるため、この点についても大きな問題はないと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎週の課題を明示していることもあってか、学習量についてはある程度確保出来ていると考えている。ただ、各自の学習を行わない理由として、何をしたいかわからないといった意見が出ており、授業並びに課題以外の部分で、どのように学習、あるいは学んだ知識を活用していくかについて、情報提供を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業の内容自体はある程度まとまってきたように考えているが、成績評価の部分で、成績分布が想定より低くなってしまった点が反省点である。成績評価の方法については、初回講義の段階で、個々の課題について、それぞれ何点ずつ配点するかも含めて説明していたのだが、各回の課題を提出しないことで、成績評価にどの程度悪影響となるかをもう少し具体的に、わかりやすく提示するべきだったと考えている。来年度は、たとえば1回課題未提出者の成績分布のような形で示すことで、課題提出を促していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	現代社会はストレス社会であると感じる。心理学の分野に期待が高まっている。本講義では基本となる心理学一般の基礎知識や教養的知見の修得を目指しながら、専門性のある生涯発達心理学の視点から授業を組み立てている。それは今を生きる学生に最も必要な「生き方の模索」に関わる問題だからである。昨年度の大きな課題は講義中の集中力をいかに途切れないようにキープさせるかという点であった。このため講義途中で「映像」を多く取り入れた。自由記述などを読むと概ね成功したと理解できる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度に引き続き、全体を通して達成されたという根拠は「定期試験の結果」である。優れた及び良しの合格点を取った学生はほぼ100パーセントに達した。定期試験は記述式がその中心であるが、記載の内容も的を得たものでありしっかり書かれており理解の進んだものであった。また学生の授業評価アンケートの記述にも「ためになった」「分かりやすかった」「面白かった」などが多数あり知識理解と意欲関心について一定の水準を保ったことが伺えると思った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	昨年度と同様に、毎回の授業について、ミニ感想や質問を自主的に書いて提出するように求めている。この効果は大きく好評のようである。自由記述を見ると、これに関する「質問の回答の時間が一番良かった」「心理学だけでなく先生の人生の話が面白かった」等の記述もあり、本科目の目標である「ストレスの多い現代社会を生き抜く健康な心構えを形成する」というねらいが達成されたと評価できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の問題点であった、自学自習を促すための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えた方が良いのではないかと授業アンケートの結果からまだまだ改善されていないと言える様である。昨年同様に学習量を高める工夫の一つとして予習の課題設定を今後さらに試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶え、睡眠モードに切り替わる学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえたい。睡眠学習者0を達成するのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
経済学入門	2	前期	選択	はい	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	経済学の考え方を伝えるため、資料・問題作成に重点をおいた。
--	--------------------------------------

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の評価と単位取得状況					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	経済学の基礎知識に重点を置いており、その理解に関して、試験等の提出物から確認を行なった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	理解度を上げるため、もう少し問題量を増やすことを考えている
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	経済学の基礎を伝えることは達成できていると考えられるが、実際の経済状況への興味を引き出す試みを考えたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	回答者数は16名、回答率は42.1%であった。受講動機を見ると、「関心のある内容である」56.3%、「単位数を確保する」50.0%、「資格取得に必要である」37.5%であった。昨年度に引き続き、講義内容に関心のある学生が多い。この科目は資格取得に必須ではないが、シラバス・イントロダクションにおいて、「権利擁護を支える法制度」（3年後期）および「刑事司法と福祉」（4年前期）をはじめとする社会福祉士・精神保健福祉指定科目の内容の基礎となる旨を述べており、「シラバスを参考にし、社会福祉士の資格を取得するのにおすすめだと書かれていたから」との意見も見られた。保健福祉学部3学科同時開講の科目のため、福祉に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価は、授業中の確認テスト・コメントおよびレポートで行った。素点の平均点は73.38点、理想的レベル（90点以上）に達した者は5名、不可と評価した者は3名（ほか、出席数不足1名）であった。平均点は昨年度(79.26点)より大幅に低下している。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.4、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値は4.2、「自分なりの目標を達成した」の平均値は4.0であった。このほか、DPには加えていないが、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値は4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値は4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値は3.9であった。これは「法学」という科目そのものの特性のほか、講義の中で社会における具体的な事件を用いて説明したことにより、講義のポイントを学生が理解できていることによると思われる。全体的には、昨年度とほぼ同様の平均値を示している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないが、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護を支える法制度」、「刑事司法と福祉」をはじめとする社会福祉士・精神保健福祉指定科目の内容の基礎となる。また、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、人々を総合的に理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はいずれも4.4、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.3、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.1であった。いずれも昨年度とほぼ同様の数値を示している。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は12名、全く復習をしなかった学生は11名で、予復習を行っている学生の割合は非常に少ない。授業以外に学習していない理由として「他の課題で精一杯だったから」、「授業の内容で十分だと思った」、「特にやることが見つからなかった」などの意見が見られた。他方、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習については、「分からなかった部分を調べてノートにまとめた」との意見が見られた。学生の意見については、「説明やスライドがとても分かりやすかったです」、「興味深い内容でした！」との意見があった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考えており、現時点で改善すべき点は特にないと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	納富 末世

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	はい	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をカードの数値より確認すると、「必修科目である」73%、「資格取得に必要である」53%、「関心のある内容である」24%、「単位数を確保する」17%となっており、「英語の授業」を避けては通ることができない学生が多く、学習効果を最大限に得る必要がある。そのためにはまず「英語の授業」に自らが何を求めるのかを明確にすることが課題であると感じた。 ②英語に対して苦手意識をもっている場合は、苦手とする文法事項について、シラバスに記載したように個別に課題を出すことで苦手意識をできるだけ解消できるようにした。 ③授業においては、学生の興味関心および学習意欲を喚起できるようにつとめ、毎回の授業で可能な限り全員に質問を投げかけることにより、学習準備の効果と学生の理解度を確認した。 ④学習準備として、苦手得意に関係なく取り組める単語の意味および読み方の確認、英文の内容把握と音読練習を行うことで授業の学習効果の向上を意図した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83点（100点満点）であり、全体的に理想的レベルに達したことを評価したい。知識理解に関しては、当初、予定していた小テストが授業の進行が遅れたため、レポート課題としたが、提出した学生は全員が適切に書けており、高く評価をすることができた。さらに音読課題を課したが、その課題の平均点が7点（10点満点）であることから、英文を読む能力については伸び悩みが感じられた。これは授業内でも感じられたが、英語を読む際には、どうしても自信のない様子になる学生が少なくない。語学の授業であるため、声を出す練習が不可欠であることを今一度、学生に浸透させる一方で、声を出すには心を開ける環境が必要であることから、学生が心を開いて積極的にのぞめる授業作りを自身の課題とする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 今回、受講動機には「必修である」「資格取得に必要である」「関心のある内容である」「単位数を確保する」といった項目があげられた。いずれも最大限の学習効果を得るに値する動機ではあるが、実際には「単位数を確保する」ために受講する学生と「関心のある内容である」ために受講する学生の学習動機には差があることを認識する必要がある。今回は動機に違いがあるにもかかわらず、成績評価は高いことから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低かったが、思考判断として何を問うているかが学生に伝わらなかった可能性を示している点では方法的妥当性の問題である。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業において図書館やインターネットを利用をした学生が少なかったため、来年度は図書館やインターネットを使うための課題を用意したい。また、授業中準備から授業内でやるべきこと、さらに授業後にやるべきことを具体的に明示していきたい。 復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けては、第一に、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「必修および資格取得に必要である」ということが本科目の主な位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、思考判断の面では課題を残した。授業を振り返ると、テキストで学習した知識と理解した事柄を何にいつどのようにどう活かせるのかということに触れる時間が不十分であったと考える。来年度は、それらについて、できるだけ具体的な例をあげながら明確に示し、学生自らがすすんで授業以外の学習へと取り組み、学習の幅を幅を広げられるようにしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	納富 末世

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をカードの数値より確認すると、「必修科目である」73%、「資格取得に必要である」53%、「関心のある内容である」24%、「単位数を確保する」17%となっており、「英語の授業」を避けては通ることができない学生が多く、学習効果を最大限に得る必要がある。そのためにはまず「英語の授業」に自らが何を求めるのかを明確にすることが課題であると感じた。 ②英語に対して苦手意識をもっている場合は、苦手とする文法事項について、シラバスに記載したように個別に課題を出すことで苦手意識をできるだけ解消できるようにした。 ③授業においては、学生の興味関心および学習意欲を喚起できるようにつとめ、毎回の授業で可能な限り全員に質問を投げかけることにより、学習準備の効果と学生の理解度を確認した。 ④学習準備として、苦手得意に関係なく取り組める単語の意味および読み方の確認、英文の内容把握と音読練習を行うことで授業の学習効果の向上を意図した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された				やや達成されなかった
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86点（100点満点）であり、全体的に理想的レベルに達したことを評価したい。知識理解に関しては、小テストの平均点が16点（20点満点）であることから、技能表現能力については伸び悩みが感じられた。小テストの内容としては各Unitで学習したものであるため、今一度、学習達成度を授業を進める中でこれまで以上に確認する必要があると感じた。さらに、英文を読む際には、どうしても自信のない様子になる学生が少くない。語学の授業であるため、声を出す練習が不可欠であることを今一度、学生に浸透させる一方で、声を出すには心を開ける環境が必要であることから、学生が心を開いて積極的にのぞめる授業作りを自身の課題とする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 今回、受講動機には「必修である」「資格取得に必要である」「関心のある内容である」「単位数を確保する」といった項目があげられた。いずれも最大限の学習効果を得るに値する動機ではあるが、実際には「単位数を確保する」ために受講する学生と「関心のある内容である」ために受講する学生の学習動機には差があることを認識する必要がある。今回は動機に違いがあるにもかかわらず、成績評価は高いことから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低かったが、思考判断として何を問うているかが学生に伝わらなかった可能性を示している点では方法的妥当性の問題である。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業において図書館やインターネットを利用をした学生が少なかったため、来年度は図書館やインターネットを使うための課題を用意したい。また、授業中準備から授業内でやるべきこと、さらに授業後にやるべきことを具体的に明示していきたい。 復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けては、第一に、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「必修および資格取得に必要である」ということが本科目の主な位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、技能表現の面では課題を残した。授業を振り返ると、テキストで学習した知識と理解した事柄を何にいつどのようにどう活かせるのかということに触れる時間が不十分であったと考える。来年度は、それらについて、できるだけ具体的な例をあげながら明確に示し、学生自らがすすんで授業以外の学習へと取り組み、学習の幅を幅を広げられるようにしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の88.9%を除いて、②「友人が履修している」は33.3%で、③「関心のある内容である」は66.9%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数が12名で、語学の初級としてはやや少ないと思います。しかし、学生一人一人に対して指導ができることがとても良いと思っています。 3. 「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.0の数値であることから、学生の意見や表現を十分に到達したことが伺います。今後の授業においては、学生間の会話ができる場面や機会を増やしていくことにもっと工夫して行きたいと思っています。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. A評価は7名、B評価は3名、C評価は1名、E評価は1名であり、最終的な成績の平均値は「77.8点」であった。標準的レベルに達していた。 2. （DP-1）の知識理解、（DP-5）の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。4. 自発的学習については、中国語の動画アプリやネットで関心のある内容を自ら調べて学習することが評価するべきです。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、①「自分なりの目標を達成した」は平均点3.7点、②「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.4点、③「専門分野について、深めたい意欲を持つことができる」は4.0点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習は週に2回ほどが半数以上です。このままの状態を維持し続けてほしいです。 3. 「図書館やインターネット等の利用」は、インターネットの授業関連な学習があまり利用したことが見られません。今後は授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることをもっと学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」75.0%、「単位数を確保する」66.7%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。 ②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。その項目から受講動機、韓国語学習経験、知りたい事を把握した。③各課に文字読み取りテスト、単語テスト、挨拶テスト、自己紹介テスト、会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④昨年度に示した改選計画では、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由に「どのようなことをしたらいいか分からなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成されなかった				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71.5点であり、再試験対象は3名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、7名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては58.5%、機能表現は84.6%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	3	前期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	自分の考えを相手に伝えたつもりが、つमりのみに満足して、本来は伝わっていないというケースが多々見受けられることを、まず学生自身が認識してその課題点を見出すことが文章上達の第一歩となることを認識してもらうよう、読む、書く、聞く、話すという最低4つの構成上の意義について学ぶことを主軸として、そこに力点をおいて講義した。この4つのうちひとつが欠けても十分な表現者としての完成はあり得ないことを例題を提示しながら説明し、学生自身も自ら書いて学ぶという手法で講義に取り組んだ。ただ、最も大切なことは、単なる技術的なテクニックだけでは無く、ものの見方、受け取り方はまともにできているのか否か、バランスの取れた人格であるのか、そういったすべてが、自身の表現を決定するものとしてあらわれてくるポイントであることをまず自覚する必要がある。したがって多くの書物に触れ、知識を習得し、考え方の向上に努め、自らを軌道修正していける実力をつけなければならないことを、さまざまな見本となる例文を提示しながら教示した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価としては大体75パーセントまでは伸びていると思われる。注意を受けたところは素直に着実にあらためているようであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけから見た妥当性については、75パーセントは活かされていると思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	改善策としては、私個人の座学ではなく、グループワークも取り入れながらの展開も講義の方法としては、他学生から表現を学ぶチャンスが与えられることもあると思うので、次回からは必要に応じて実施したいと思っている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	添削とマンツーマン指導を出来る限り増やすこと、また個別指導の徹底、そういったことを、細やかにしていかなければならないと痛感した次第である。 日本語表現法という講義の特質は、とにかく自身の力で書くことが、上達の一步であるので、そこを、学生ににしっかり伝授できればと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。 今回の受講動機をみると「関心のある内容」が25.6%、「単位数を確保する」が34.9%と、消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。 特に次の2点については学生の興味を引くことができるように配慮した。 ①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②学生が興味を持ち、パソコン等の機器を積極的に利用する姿勢を作るような課題を工夫をした。 ③PowerPointでプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の成績の平均値は84.6であり標準偏差は11.8であった。成績はレポート(100%)として評価した課題の提出、および出席状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているので良しとすべきだろう。 学生の到達度自己評価の平均値は3.8～4.3と学科に比し低いが、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3.2と低い評価となったが、これは、オンライン授業のために「プレゼンテーション」を行う授業が実施できなかったことに影響されていると思われる。それ以外の項目では「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が4.0、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.3と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。 ②学生の意見として、「課題で精一杯」というものがあった。他の科目の課題との兼ね合いもありオンライン授業での進め方の工夫が必要と思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ただし、授業過程を振り返ってみたとき、情報処理演習科目でチューデントアシスタントがなく、栄養学科との共同開講科目となったため、学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす工夫が必要があるように思うので来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。全授業回のうち、前半は基礎技術の習得を行い、後半は実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。 情報関連の知識・技術が今後の学生生活や就職後に必須であることを理解できるよう、課題の内容を工夫した。 また、後半では、各自が目指す職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。 授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する（2）知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。 授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「課題で十分」という記述が多い。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなく能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であり、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少ないが、授業を通して理解されるよう努めている。実際、到達度自己評価の項目のうち、（7）自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果は良好であった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	後半の能動学習を昨年度までのグループワークではなく各個人の一人プロジェクトとしておこない、プレゼンテーションも個人単位で行った結果、プレゼンテーションのクオリティーが向上した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	古川 洋章

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、科目名の通り情報処理に関する科目であるため、事前に必要な前提知識およびスキルセットについてシラバスで周知をしている。またアクティブラーニングを実施するため、授業毎に提出された課題を評価した上でメンバー分けを実施し、各班のスキルレベルが一定となるように調整を実施している。 本科目の受講動機をみると、「資格習得に必要である」の項目が78.6%、「関心がある内容である」の項目は14.3%と、昨年度（「資格習得に必要である」：62.0%、「関心がある内容である」：18.0%）と比較し、資格取得のために受講している学生の割合が高いことが明らかとなった。一方で、「単位数を確保する」の項目が14.3%と昨年度の28.0%と比較し減少している。これらより、シラバスやオリエンテーションにおいて本授業が初心者向けの講義ではないことを強調したため、受講動機のミスマッチが減少したことを示している。 次年度も引き続き、シラバスや初回のオリエンテーション時に丁寧に説明をしたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均は73.0(±11.2)点であり、標準的レベル（成績が60点以上を想定）に達していない受講者が全体の約11.1%（5名）、理想的なレベル（成績が80点以上を想定）に到達している受講者が全体の約26.7%（12名）であった。標準的レベルに達していない受講者が昨年度より増加しているが、これは課題の未提出や出席回数が規定値に達していない等によるものであり、授業の内容に起因するものではなかった。この点を考慮すると、達成度については昨年度とほぼ同様であった。 目標別にみると、知識理解に関しては66.7（±8.1）%、技能表現に関しては62.1（±11.0）%の到達度であり、昨年度より知識理解について改善したものの技能表現については低い結果であった。技能表現では、課題制作やプレゼンテーションにおいて特に低い得点率となっているため、自身の考えを表現する力をどのように獲得していくかを課題とて、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「養教一種免」に関連する科目であり、「情報機器の操作」における科目として資格取得の上で必修である。単純な機器操作だけではなく、情報モラルや著作権などの情報を扱う上で必要となる知識や、情報を発信するために必要な技術について習得を目指している。近年の情報社会におけるニーズと情報技術の活用の観点から、授業の難易度は高めであると認識しているが、到達度自己評価の結果や学生の成績状況を考慮すると、内容的には妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	はじめに「授業の質の評価」において、「（４）授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が4.6と、学科別集計の平均と比較し高く、この点は評価できる。また、「（３）説明は理解しやすいものであった」の平均が4.5と昨年度より大幅に改善しており、かつ学科別集計の平均と比較すると高い結果となった。本授業は情報系の科目であり、かつプログラミングの要素を含むため、学科の専門性を鑑みると難しい内容となっているが、よく理解していると考える。 次に授業評価アンケートの学習量の評価では、準備および復習を1回以上実施した割合が71.4%と学科別集計および昨年度の結果と比較し高い結果となった。これは受講者が目標達成に向け積極的に学修に取り組んだものと考えられ、非常に満足している。昨年度は、授業中の課題について時間が取れないという意見が寄せられたため、授業中の課題量について調整を実施した。その結果、アンケート結果からも適切な課題量になったと考えられ満足している。次年度も引き続き考慮して取り組んでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成目標への到達については、概ね達成できた結果となった。今年度の課題として、授業外学修における効率の良い課題提示が挙げられる。次年度は、学習に用いるツールを改善する等、予習・復習がしやすい環境が提供できるよう対応していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	まずは全学科の情報を記します。大学の5学科からの受講生（79名）がいる。学科別履修者数と授業評価回答者数（）を示す。看護16名（8）、福祉：32名（9）、栄養：7名（3）、英語：13名（3）、観光文化：10名（1）。昨年度から外部講師には授業1週間前には、少なくとも30分は事前学習が必要な教材を公開できるように依頼した。5名の外部講師は、動画、文字資料の形式で課題を出してくれた。福祉学科では、4、学習量の評価の（1）授業前の予習時間では、③2、3回が3名で最多だった。②以上の合計で回答者中の三分の二であり、事前学習課題を出した成果があったと言える。履修する際にシラバスを77%が参考にしたとしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最初に5学科の本試験の成績（％）を示す。看護：A75、B13、E6、J6。福祉：A50、B41、D3、J（放棄）2。栄養：A43、E14、J43。英語：A92、B8。観光文化：A30、B20、D10、E10、J30。評価は授業最後に出すコメント（レポート）（40％）、レポート外の提出物がPPTでの提出物（20％）、発表（口頭、プレゼンテーション）（20％）、その他はポスターセッション発表（20％）でした。開講四年目ですが、最初の二年間はレポート100％としており、不合格者が4割出る学科もありました。それから次第に評価項目を増やしていき、より単位を取りやすくなってきています。授業評価の6、図書館利用の三項目では、福祉学科学生は、延べ9名が三つのどれかを利用している。特にインターネットのHP利用者は77％で最も高い。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価の10項目の平均を5学科別に%でみる。看護：2.9、福祉：3.07、栄養：3.82、英語：4.74、観光文化：3.2となる。3年前期の選択科目であり、あくまで総合人間科学の科目であるところが肝要と考える。学生の質問は「北九州の技と文化」でのレポートの形式に集中する傾向があり、なぜ専門の内容に書いてはいけないのかということがよく問われた。対象ではない、DP2（思考判断）、5（技能表現）も、学生からの提出物（コメント、レポート）の評価対象とせざるを得ないところに、DP配置についてはやや苦しいところがある。しかしながら、論理的思考や表現技能を3年になるまでにはまでは鍛えられていると期待したい時期に配置されている授業であり、カリキュラムマップ上の位置づけは妥当だと考える。これで四年目の開講であるが、福祉学科はどうしても実習と重なり、1、2回の欠席（とその補講）となるが、避けられないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の5項目の平均を5学科別に%でみる。看護：3.92、福祉：3.12、栄養：2.68、英語：3.54、観光文化：3.42となる。最も低い項目は5学科中4学科で（3）説明は理解しやすいものであったです。5学科の平均値を示すと、看護：2.9、福祉：2.9、栄養：3.3、英語：4.4、観光文化：2である。これは全体的には厳しい数字であるが、福祉学科もかなり厳しい。シラバスに基づいて説明をしていくしかありませんので、より丁寧な説明で臨みたいと思います。外部講師の方には、シラバスを事前に確認していただき、基本を押さえて、ゆっくり話をさせていただくように依頼をしています。今後ともこの要領で臨みますが、今回の評価結果も取り入れたいと思います。（3）説明は理解しやすいものであったについては、当授業では、総まとめ役の専任教員と、外部講師5名の両方に関わりますので、わかりやすい説明をしたいと思います。専任教員としましては、担当教員への意見「授業内と授業終わってからの二重で要約や感想を出さないといけなかったことは、時間のロスじゃないかと思いました」と福祉学科の一人からありました。他学科からも同様の指摘が一人ありましたので、これは改善します。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	かなり良い成績（A, Bで91%）した。後は、D3、J（放棄）2です。5学科の学生に同じ授業をしても、学科によっては評価の差が大きく出ます。福祉学科では、到達度の自己評価、授業の質評価の両方共、5学科中の下から2場面ぐらいになります。総括的評価としては、もう少し何とかできなかっただろうかという悔いが残ります。79名を相手にするのであり、一斉指導が中心にはなりますが、オフィスアワー等を活用して、個別の指導をするなどの方策を授業の内外でとる必要があると考えます。福祉学科は補講を二回受けた人もいます。79名を相手にするのは大きな違いを感じます。なかなか難しいのですが、何とか授業の内外で丁寧にサポートする体制ができれば良いと考えます。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということを、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。 なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えられる。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、今年度は対面にて、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	例年「単位数を確保する」という受講動機が多い科目となっており、講義開始時には講義内容に対する関心が低い学生も多いと見られる。そういった学生にも、結果的に受講してよかったと感じてもらえるように毎年内容を工夫している。今年度は、「関心のある内容である」という受講動機も比較的多かったことから、当科目を受講する意義が伝わるような内容のシラバスにできていたと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業評価アンケートの到達度自己評価項目（1）（9）（10）などにおいて、概ね高い評価となっていることから、本科目の目的は達成されているものと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	レポート課題の中で、就職や人生設計に役立つ知識が得られたとのコメントが多く見られた。従って、キャリア科目として妥当な内容となっていると考えられている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゲスト講師の講演を取り入れるなどの工夫をすることで、多くの学生が集中して受講できていたと感じている。講義時間外の自己学習については、あまり時間を割いていない学生が多いが、本科目の位置づけを鑑みたときに、専門科目の課題が優先されているのは問題ないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的にみて、当科目の目的は達成できていると感じている。来年度以降も社会情勢を踏まえながら、学生に有益な知識を提供できるよう努めたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	一年前期開講、必修、演習科目であるため、 ①授業計画、達成すべき目標を分かりやすく伝えるよう努めた。 ②授業の終わりには毎回、各授業の目的を記した用紙にて小レポートを提出させ、学生の意欲、態度、理解度の把握に努めた。 ③②を踏まえて次の授業での演習方法や目的説明のあり方を調整するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された				達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	受講生の最終的な成績の平均値は82.5点であった。 殆どの者が標準レベルに達した。学生による授業評価においては、「自分なりの目標を達成した」の平均点は4.5、中央値は5.0であった。また、知識獲得の平均点は4.5点、視点獲得の平均点は4.3点であり、専門分野との結びつきを意識しながら取り組むことができたようである。また、意欲の平均点は4.6点であり、すべての学生の学びへの意欲を引き出すことができた。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.7、中央値は5.0であったことから、スキルを獲得したと強く感じられる学生が多くみられたことは、目標達成に繋がったと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、一年前期開講の卒業必修科目である。大学の教育方針、授業形式、人間関係に慣れ、一年後期からの「専門科目」の演習群に導入していくための重要な位置付けがあると考えられる。 ②成績評価からは、目標は概ね達成されており、学生の自己評価では達成できたと評価する学生が多くみられたことから、今後の学生生活、専門科目における講義、演習の履修に大いに役立つ体験が得られたと考えられる。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は、平均値は4.4～4.7であった。授業の進め方は適正であり、来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図ってきたい。 学習量については、30分以上の予習時間を週に1回以上取った者が28%、30分以上の復習時間を週に1回以上取った者は56%であった。また、自発的学習に取り組んだ者は8%であった。 オンライン授業で展開された2年前と比べると、大学の授業に関連した「調べる」学習行動は減少している。 授業の課題以外に取り組んでいない理由には、「会話をしたり人と接する授業だから」「その場での活動が大事だったから」と授業内の経験の重要性を理解している意見がみられた。 「何に取り組めばいいのか分からない」という意見もみられたが、「友達がいっぱいできた」「楽しかったと同時にたくさんの力を身につけることができた」という自由記述にあるように、本演習の学びが、課題外の大学生活における新たな人間関係形成の実践、ヒューマンサービスに必要とされる対人コミュニケーションの実践に役立ったと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね達成できたと考えられる。 来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図ってきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	山本 佳代子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」17.6%、「関心のある内容である」17.6%、「j単位数を確保する」5.9%であった。 本科目は、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキルについて学ぶ科目である。受講動機が「必修科目である」が100%であるため、学生に興味関心を持ってもらうことが必要であり、そのため、オリエンテーションや講義内で、本演習の学びが2年次、3年次にどのように生かされるか具体的な説明や、グループワークの課題に福祉の課題を取り入れ、学生自身が関心を持ち取り組めるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館、インターネット利用」，自由記述の意見など	到達度自己評価では、10項目すべての項目において平均値が4.0以上であった。特に本科目において学生が到達すべき目標とも関連する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」では、平均値4.5点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」平均値4.5点、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」4.5点であった。これらのことから、教育目標はやや達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、対人援助職に必要な態度（DP4）、技能・表現（DP5）を習得する科目である。学生の目標達成状況、到達度自己評価からDPにおける内容は妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価については、5項目中4項目において平均値4.5点であった。今後も学生が、他の学生と交流しながら主体的に学ぶことができる授業を実施していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケート結果、自由回答から教育目標を達成することができたと考える。昨年度の課題であった、図書館利用についてもグループワークの課題をインターネットで情報収集するなどが増えていた。引き続き、次年度につながる演習となるよう心掛けたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートのうち「受講動機」において、「関心のある科目である」という意見も一定数あるものの、「必修科目である」が多い結果となっている。毎年、このような受講動機となっていることから、説明だけでなくグループワークを多く実施し、体験的に他者とのコミュニケーションについて振り返ることや自分自身への理解を深めることの重要性に気付けるよう工夫をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された				達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績が80点以上の学生が多く、ほとんどの学生が設定された授業目標を達成できたことが示唆された。 授業評価アンケートのうち「到達度自己評価」の多くの項目が4.0点以上となっていた。このことから、客観的評価だけでなく学生自身も授業目標を到達できたと感じられているといえるだろう。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は、対人援助の専門知識や関わりを学んでいく学生が、その前提として対人関係における自己の在り方に気づき理解を深めていくことを目標としている。そのため、1年生前期での開講が妥当であるといえるだろう。また、専門知識の習得よりも、実際のワークを通じ体験的に自己の在り様に気づくことを目的としているため、DPについても「態度」および「技能表現」が適切と考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	体験型のワークが「楽しかった」などの感想で終わらないように、毎回の講義時間の最後には、そこで得られた気づきが対人援助の場でどのように活かされるか、応用されるかについて解説を行うようにした。 学習量の評価では、授業の予習復習をした回数が0回である学生が多かった。また、図書館利用をした学生もほとんどいなかった。自由記述欄には「することがなかった」「何をすればいいかわからない」との記述があった。本講義は、授業時間中に他者と関わるワークへの参加と、その振り返りを行った。振り返りを授業内に即時的に実施したほうが、ワークでの学習が定着しやすく有効であると判断したためである。また、本講義では知識の習得よりも他者とのかかわり方の姿勢を重要視しているため、授業時間外に授業内容に関する予習復習や、課題に取り組む必要性はなかったと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね授業目標を達成できたものと考えられる。 また、授業評価アンケート「必修科目である」という項目の結果からは外発的な動機で履修した学生が多いことが分かったが、成績や授業評価アンケートのそのほかの項目の結果を鑑みると、授業には積極的、主体的に参加できていたものと考えられた。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉入門	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は福祉基礎科目に位置づけられている。授業目標は、福祉課題への関心を高めることや専門職への動機づけであり、専任教員（5名）と福祉現場に従事している外部講師（5名）で担当している。 学生の履修動機を見ると、「必修科目である」（97.2%）が最も多く、次いで「資格取得に必要である」（22.5%）、「関心のある内容である」（19.7%）の順となっている。授業では、学生がこれから4年間の学習や実習に向けて動機を高めることができるよう、福祉課題の実態やそれに対応した制度・政策の動向、現場における支援の実際などについて教授した。その際は、初学者である学生ができる限り、福祉現場やそこに従事する専門職の現状がイメージできるよう心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	全体の成績は平均84.1点であり、この点で教育目標は達成されたと考える。各DP項目について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う57.8%、わりにそうだと思う33.8%）であり、目標は達成されたと言える。「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う49.3%、わりにそうだと思う38.0%）となっており、これも目標は達成されたと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う54.9%、わりにそうだと思う32.4%）であり、目標は達成されたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う47.9%、わりにそうだと思う35.2%）であり、目標は達成されたと言える。 この他、授業の予習・復習については、「予習した」（21.1%）、「復習した」（21.1%）となっている。また、課題以外の課題への取り組みについては「取り組んだ」（15.5%）となっている。学習量においてはやや課題が見られるものの、総じて教育目標は達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の平均点は84.1であった。また、学生の到達度自己評価の「意欲関心」において、本科目の教育目標は達成されていた。以上のことから、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP,カリキュラム上の位置づけ 本科目の主要な教育目標は福祉専門職への動機づけであり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の教育目標は達成されたものの、授業の予習・復習や課題以外の学習への取り組みといった点では課題が残った。今後も引き続き、学生の主体的な学習態度を引き出せるよう授業内容や展開の改善を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度同様に、次年度も教育目標を達成できるよう教員間で授業内容・展開方法等について、十分に検討・共有していきたい。また、外部講師においても教育目的を意識した授業を展開して頂くよう周知していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会調査の基礎	4	前期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士国家試験の受験科目であるため多くの学生が参加していた。 ただし意欲の点からすると苦手な数学のイメージから、及び腰の学生も多く見られた。統計的技法の習得に十分な数学的技能を備えていない者も多く、「統計の意味を理解する」ことに重点を置いた。数学Ⅰにおけるデータの分析の学習状況は高校によって差が大きいと考えられる。統計の授業のオリエンテーションにおいても、計算が苦手でも必ず社会調査を理解することができるという授業のコンセプトを説明し、学生の動機付けに配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○2022年度：平均97.1 秀92.2%、優6.3%、良3.1%、可1.6%、不可0.0% 標準偏差5.45。 ○2023年度：平均91.9 秀65.0% 優26.7% 良8.3% 可0.0% 不可0.0% 標準偏差6.71。 ○昨年度と比較すると平均点で5ポイント低下し、秀が27%低下、優が20%上昇、良が5%上昇、可はいなかった。 ○全体的に大変良い成績であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	国家試験に対応した科目であり、一定の基礎的な学習の上に展開する4年次科目として、内容的に妥当性があると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○本年度は、養護実習期間と開講時期が重なっていること、新型コロナウイルス感染症による欠席等、やむを得ない事由に該当する欠席と補講対応が多かった。特に養護実習については、前期期間中の異なる3週間を欠席するため、受講生の自学を支援する必要があった。 ○以上の点を踏まえ本年度は (1) レジュメだけである程度理解できる教材づくり。 (2) オンライン試験向けのブレ問題の作成と解説。 (3) 授業内で学生の疑問や学習課題へ対応する。 (4) 補講対象者以外の希望者も補講で指導する。 といった点を中心に全員合格レベルに到達する授業運営を心掛けた。昨年度は標準偏差が非常に小さく、学習到達度を弁別するテストという点に課題があったため、本年度は難易度をやや高めた。その結果、秀へ集中から優への分布が広がった。一方、可と不可は0で、授業で期待される理解レベルに全員到達できた。4年前期の国家試験科目であることなども踏まえて基礎基本の徹底というやり方は適切であったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○次年度は授業内容のレベルを維持しつつ、試験レベルをもう少し難化させたい。ただし、本年度同様、可や不可がでないような理解と知識の定着を目指したい。 ○本年度は前期授業の学習を夏季休暇中の国家試験対策講座へとつなげ、後期もGoogle Classroomの機能を活用しながら学習補助を続けている。そのあたりの効果も踏まえて次年度の改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
福祉経営論	4	前期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の応用と深化」をねらいとした福祉専門科目である。受講動機を見てみると、「必修科目である」が64.0%、「資格取得に必要である」が84.0%、「関心のある内容である」が16.0%となっており、多くの学生が資格取得のための履修である。福祉経営という学生にとってはイメージしづらい領域であるため、新聞記事で時事的な問題を提示したり、実習での体験と結びつけられるような話題を提示したりして、できるだけ学生が身近な内容としてとらえられるよう工夫した。また4年次の科目で国家試験を間近に控えているため、過去問を適宜提示し、授業内容と国家試験問題の内容が結びつくようにした。また毎回のコメント提出の課題により学生の質問や意見等を求め、次回の講義の冒頭で質問等に答えるなどのフィードバックを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均点は85.5点、中央値は88点であり、全体的に優秀な成績であったが、再試対象者が8名いた。評価割合はA評価43%、B評価20%、C評価13%、D評価10%、E評価13%となっており、A・B評価で6割を占めていたが、E評価も1割を超えていた。成績下位の学生に応じた教授方法について次年度以降も工夫していきたい。 学生の自己評価の「自分なりの目標を達成した」の項目は平均値3.9、中央値4.0であった。このことから、目標は「やや達成された」と判断した。DP1に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考えを得ることができた」の平均値は4.3、4.2、中央値は4.0であり、目標は「達成された」と判断した。またDP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.1、中央値4.0であり、目標は「達成された」と判断した。DP3に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値4.2、中央値4.0であり、目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 4. で記したとおり、学生の成績、自己評価からは内容的には概ね妥当であったと考えられるが、本科目は社会福祉士の国家試験科目であるため、特に成績下位の学生に向けて理解を高められるようなわかりやすい講義内容に改善していきたい。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記にも記したとおり、学生の理解をさらに高めていくような取り組みが必要である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、各項目の平均値が3.8-4.4点であった。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目において「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名ずついた。また「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が平均値3.8と低かった。講義系科目で教授内容が多い科目であるため難しい面はあるが、できるだけ学生が主体的に参加できるようアクティブラーニング等を取り入れる工夫を今年度は行った。さらに学生が参加できる機会について工夫していきたい。また担当教員への意見の中に「レジュメ枚数が多い」との意見があった。できるだけ要点を絞り、学生にわかりやすいレジュメ作成に努めたい。 学習量の評価の「自発的学習」については、「取り組んだ」と回答した学生が64%であった。また学生の自由記述では、「ノートに要点をまとめる」「国試に向けた勉強」などの記述がみられ、講義内容を通し国家試験の勉強につながっていたことから、今後も講義内で意識づけを行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の応用と深化」をねらいとした福祉専門科目である。福祉経営という学生にとってはイメージしづらい領域であるため、特に成績下位の学生に向けて、わかりやすい講義内容、レジュメ作成を行って理解を促すとともに、できるだけ学生が身近な話題としてとらえられるような工夫や、事例等を用いたアクティブラーニング等を取り入れ、さらに分かりやすくする工夫に努めていきたい。 今回のアンケートは、履修者61名に対し、回答者は25名であった。次年度は講義内で実施するなど、アンケートの回収率も上げられるようにしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
就労支援サービス論	4	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は4年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の展開」をねらいとした福祉専門科目である。受講動機を見てみると、「資格取得に必要な」が86.7%、「関心のある内容である」が33.3%、「単位数を確保する」が20.0%となっており、資格取得のための履修であることがうかがえるが、「関心のある内容である」との回答も少なくなく、一定程度の関心を持っている履修者がいることがわかる。本科目は社会福祉士指定科目であるため、授業はできるだけ養成テキストに沿う内容で進めると同時に、新聞記事で時事的な問題を提示したり、DVDなどの視聴覚教材を多く使い、加えて今年度は就労支援施設で実施されている作業体験を組み込み、就労支援の実感をイメージできるよう努めた。また事例演習を行うことで、就労支援の領域におけるソーシャルワークの展開過程を学生が理解できるよう努めた。さらに4年次科目であるため、国家試験も意識化できるよう、過去問を適宜提示し、授業内容と国家試験問題の内容が結びつくようにした。また毎回のコメント提出の課題により学生の質問や意見等を求め、次の講義の冒頭で質問等に答えるなどのフィードバックを行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は97.3点、中央値は95点であり、再試対象者は1名であった。評価割合はA評価59%、B評価19%、C評価7%、D評価7%、E評価4%となっており、A評価が6割を占め、大変優秀な成績であった。 学生の「自分なりの目標を達成した」の自己評価では、平均値3.9、中央値4.0であり、「やや達成された」と評価した。DP1に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考えを得ることができた」の平均値は4.1、中央値4.0であり、目標は「達成された」と判断した。DP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値は3.9、中央値4.0、DP3に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」の平均値は3.9、中央値4.0であった。これらの点から目標は「やや達成された」と判断した。DP2、DP3の項目において、「全くそうではないと思う」と回答した学生が1名、DP1、DP2、DP3の項目においてそれぞれ「少しそうでないと思う」と回答した学生が1・2名いた。したがって全体の評価として「やや達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 4. で記したとおり、学生の成績、自己評価から内容的には概ね妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記にも記したとおり、概ね内容は妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、各項目の平均値3.9-4.3、中央値4.0-5.0であった。各項目において、「全くそうでないと思う」と回答した学生が1名おり、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」については、「全くそうでないと思う」と回答した学生が2名いた。学生の参加の機会については、4. に記したように、講義内容にアクティブラーニングを取り入れ工夫を行ったが、さらに全ての学生が参加できるような工夫を行っていききたい。 学習量の評価の「自発的学習」については、「取り組んだ」と回答した学生が80%であった。自由記述の内容をみると、「ノート作成」「わからなかったところをインターネットで調べた」などの記述が多かったため、講義を通して自己学習を促せたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は新カリキュラムの以降により、次年度以降、開講されないが、本科目の内容が「障害者福祉」に含まれるため、これまで蓄積してきた教授内容や方法を、次年度以降は「障害者福祉」の中で活用していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
司法福祉論	4	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は15名、回答率は51.7%であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」66.7%、「関心のある内容である」53.3%、「単位数を確保する」20.0%であった。例年より講義内容に関心のある学生が多い。4年生対象の科目であり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を受験する予定の学生が多いことから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、主な支援の対象者である保護観察対象者も社会の一員であり、先入観や偏見を抱かせないことに重点を置いた。なお、2021年度から2024年度より変更される社会福祉士・精神保健福祉士指定科目「刑事司法と福祉」の内容に準拠する講義内容に改めている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価は、授業中の確認テスト・コメント、定期試験で行った。素点の平均点は78.28点、理想的レベル（90点以上）に達した者は5名、再試対象者は0名であった。平均点は昨年度(75.80点)より2点以上上昇している。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.4、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値がいずれも4.3であり、他の項目の平均値も「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除く項目で4.0-4.2の範囲内にあった。全体的に昨年度より平均値が0.2-0.3ほど上昇しており、アンケートに回答した学生の関心、意欲の高さが反映されていると思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生がほとんどであり、学生の講義に対する動機付けは非常に高い。履修者の過半数が理想的レベルであることから、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.7、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.5で、昨年度と比べて平均値が0.4-0.6上昇しており、これもアンケートに回答した学生の関心の高さに応えたものといえる。また、「1回30分程度以上の準備」を行っていない学生は7名いたが、「1回30分程度以上の復習」を行っていない学生は3名にとどまり、さらに授業以外の課題に取り組んでいない学生も3名であることから、アンケートに回答した学生の多くが授業以外での学習を行っていた。授業の課題以外に学習していない理由として、「授業資料で要領を得た」、「他の科目の課題があったため」などの意見が見られた。また、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「授業の復習」、「実習先が更生保護施設のため、そのために必要な勉強と講義内容が被っていたため、関係機関などを調べた」、「気になった部分等を自分で調べ、学びなおしました」などの回答があった。学生からの意見について、「複雑な内容もありましたが、講義での説明がわかりやすく、理解することができました。またコメントカードに質問を書いたときにはほぼ毎回答えて下さってありがとうございます。講義の中の癒しであったクマ文化はぜひ今後も続けてほしいです」、「木村先生のお話は分かりやすく、休憩も取っていただいたことにより、更に理解を深められました。ありがとうございます」など、満足度の高いコメントが見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもについてはある程度達成できたと考えており、現時点で改善すべき点は特にないと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達アセスメント演習	3	前期	選択		30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	卒業や資格取得に必須ではない本講義の受講動機については、「関心のある内容である」が多く、受講学生が実習や就職後において活かせる知識と技術を身に着けようと意欲的に受講していることがわかった。講義においても、具体的な発達検査や知能検査の概要を紹介するだけでなく、検査道具に触れたり、実際に検査を実施するロールプレイングを行うなどして、実践的学びとなるよう配慮した。 また、検査方法の理解にとどまらず、子どもの発達を理解する視点の獲得や発達支援に対する理解の深まりへ繋げられるよう、発達理論と絡めた解説を実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		達成された	やや達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績は平均83.8点（±8.2点）であり、受講生によって到達度が分かれる結果となった。 多くの受講生が意欲や関心をもって演習にも積極的に参加していた。しかしながら、少数ではあるものの、割り当てられた担当の発表時に連絡なく欠席するなど「意欲関心」が低いと評価せざるを得ないひともいたため、「意欲関心DP3」は「やや達成された」と評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	発達検査や知能検査の実施体験という授業内容を通じ、発達アセスメントの視点を身に着けることが目標である。この授業内容および目標に対して設定されたDPは妥当であると考えられる。 また、実習を控えた3年生に実施することを考えると、開講時期、授業内容とDPそれぞれ妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講生の人数が少なかったこともあり、学生の感想や質問を適宜きながら授業内容に反映させることができた。そのため、受講生の理解度に配慮した授業展開になったと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績および授業評価アンケートの結果から、授業内容や授業の展開方法については適切であったと考えられる。 受講生の主体的な授業への参加が必須であることから、授業開始時のオリエンテーションにおいて受講にあたっての注意点やルールを明確に示すなどの工夫を行いたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
カウンセリング論	2	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機によると、本授業は、「関心のある内容である」75.0%,「単位数を確保する」「資格取得に必要である」「GPAをあげる」とした学生が25.0%であった。 本講義は、2年前期開講科目である。学生は1年の間に「心理学と心理的支援Ⅰ・Ⅱ」において心理学の基礎知識について学び、1年後期に「臨床心理学概論」において臨床心理学の基礎知識を学んでいる。臨床心理学では理論と実践が絶えず影響を及ぼし合うことを重視する。本講義「カウンセリング論」では、臨床心理面接の基礎となるカウンセリング理論についての講義を行った。 子ども家庭福祉コースにて保育士資格を取得する学生にとっては、選択必修科目となっているが、今年度は選択されていない。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	平均点は88.6点であり、90点以上の者が60.0%、80点～89点の者が20.0%、70点～79点の者が20.0%であった。授業評価対象となったすべての学生が標準レベル以上の学力を修得することができた。 学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」の平均値は4.8であった。概ね学生も目標を達成した実感を持ったと考えられる。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値は4.8であった。それ以外も4.8の平均値であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、1年後期の臨床心理学概論の後に続くものとして、2年前期に設けられている。 カウンセリング論は臨床心理学の一分野であり、対人援助理論の科目として、実習前に設置されていることは妥当であると考えられる。 学生も概ね苦勞なく取り組めており、授業内容としても2年次前期にふさわしい内容になっていると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	レジュメを作成し、資料等も適宜プリントして配布した。また、初学者にも理解しやすいテキストを副読し、理解を深めた。 授業の質の評価としては、平均値は4.8であった。 授業中に抱いた課題を解決しやすい雰囲気を作ることができていたことが、授業外での学習をしなかった理由として挙げられる。学生の自由記述にも「先生の話を聞く方がためになるから」「課題に集中した」など述べられており、授業での教員の説明及び課題で満足のいく学びを得ることができたことがうかがえる。 まずは基本的な概念を学ぶことが重要であるため、本年度の授業のあり方、学生の学びとしては望ましい結果であったと考える。受講生が、この学びを実習や就職後の対人援助職者としての活躍に結び付けていくことを期待する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね達成できた。 殆どの学生が単位修得することができた。 来年度も引き続き受講生の特徴を踏まえながら、授業内容の向上とともに、質疑応答がしやすい授業環境を提供できるよう工夫をしていく。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖学	2	前期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。 ②講義資料は、講義開始前に紙媒体で配布した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①今年度の結果 本試験の合格者は39名、再試が4名、追試が1名で不合格者が1名であった。本試験の平均点は76.9±12.8点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。取り組み方が足りない学生がわずかにいた。次年度は、講義資料を前もって配布し、進みそうな範囲を前もって予習してきてもらうことのみならず、復習してもらえるよう工夫を凝らすことなどを考えている。 ②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が多い項目で30%程度あった。専門基礎科目であることから、知識の習得に重きを置きがちではあるが、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、保健・医療関係科目」であり、選択科目であるが養護教諭一種免許取得には必要である。教員採用試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。養護教諭の業務内容と直接的な関連性が分かりづらい分野も含む科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたと考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.1と最も低かった。これは、身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けてはいたが、知識の伝達が主である授業のため、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかったことを意味すると考えている。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門教育科目、保健・医療関係科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、講義内容や講義時間中の質問はほとんどなかった。加えて、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。 配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」83.3%、「必須科目である」50.0%、「関心がある科目である」25.0%であった。授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。 ②地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、知識を表現するためにグループワークを取り入れ、学んだことを発表し、知識の定着を行った。また、養護実習との関連から、健康相談についてグループで演習を行い、教育の現場での実践化につなげる教材の工夫を行った。さらに、学校の現場で起こりうる事例をもとに事例検討会のシミュレーションを取り入れ演習を行った。また、後期の授業科目「教職実践演習」と関連付け、多職種との連携について事例を用いて演習を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な平均値は 80.0点（±10.0）であった。理想的レベル(90点以上) 8名、（80点以上）は20 名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、80.0%、思考・判断 80.0 %、関心・意欲85.0 %であった。授業で基礎的な知識の定着を図りつつ、グループワーク等を通して応用力の定着を図るよう授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては、知識・理解の観点平均値4.8（中央値5.0）、思考・判断の観点平均値4.8(中央値5.0) であり、到達度自己評価にはあまり差はないことが示された。関心・意欲は平均値4.8（中央値5.0）であった。 学生の知識理解の観点において、基礎的な知識はある程度定着していると考えられる。さらに応用問題が出された場合に、基礎知識を活用し応用問題に対応できるように授業構造を改善していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要であるため」と83.3%が答えている。また、到達度自己評価では「知識を修正したり、新たに得ることができた」平均値 4.8(中央値5.0)、「専門分野において学びを深めたいと、意欲を持つことができた」平均値4.8（中央値5.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」平均値4.8（中央値5.0）「自分が学ぼうとする専門分野の課題を検討する力を得ることができた」平均値4.7（中央値5.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP、行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て、知識・理解に関する達成度80.0%であった。基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度は、できるだけ学校現場での実践がイメージできるように、具体的な事例を通して、実際の事例検討会のシミュレーションを授業の中に取り入れた。 さらに、基礎知識を定着できるよう、グループワーク等の演習を交え、実践できるような力を身につけることができるように授業内容を改善していきたい。 学生の意見として「採用試験もかねて勉強できた」、「授業内容をもう一度振り返る」、「教員採用試験の勉強もかねて、復習をした」「調べ学習」などの意見があったなど積極的に授業に取り組んでいた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭の一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識理解の面は概ね達成できたが、学校現場では臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに学校現場で活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。また、事例検討会のシミュレーションをより効果的に授業内容に取り入れていきたい。また養護実習で経験した事例についても検討会を行い、より学校現場のイメージして実践につながるような授業内容を工夫した。さらに授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を設け応用問題等の提示をし応用力の養成に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	増本 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎看護技術	3	前期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得のために必要である」と88.2%の学生が答えている。目標が明確であり、そのため看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように講義を行った。「関心のある内容である」が29.4%であり、シラバスのみでは看護技術に関する具体的なイメージが難しいことが考えられる。看護技術と養護教諭の職務との関連を示すとともに、授業において、実技のオリエンテーションを丁寧に行うことを心がけた。 ②基礎看護技術の定着については、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるように、知識や技能の定着ができるように丁寧な説明を心がけた。実技演習の際には、感染症対策を行った。教員の手元が分かるようにカメラなどを使用し、また、復習ができるように、実技の練習方法なども具体的に示した。さらに実技試験の前には講義前の時間に実習室や模擬保健室での練習時間を設定した。さらに、解剖学の復習ができるように課題を提示することで基礎看護技術との関連性、理解深化につなげるとともに、解剖生理学の基礎知識の定着を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は 78.5点（±10.3）であった。理想的レベルに（90点以上）6名、（80点以上）以上に達したものは15名であった。 授業評価の指標については、学習の到達度評価の全体評価では、「自分なりの目標を到達した」と回答した学生は平均値4.2（中央値4.0）であった。「知識を確認したり、新たに得ることができた」平均値4.5（中央値5.0）、「自分が学ぼうとする専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」平均値4.5（中央値5.0）などであった。 実技の練習について、講義以外の時間帯に実習室や模擬保健室で設定した練習期間には、複数回練習に取り組むなど意欲的に練習に参加していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップからの位置づけからみて内容的妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。 到達度自己評価および最終的な成績評価からも科目の目的は、果たしていると判断でき、内容的にも妥当であると考ええる。 ②DP、行動面目標からみての妥当性 成績評価から、知識・理解に関する達成度は、77.3%、関心・意欲84.1%、技能・表現86.4%であった。 授業で学んだ知識・理解の定着を図るよう、授業内容を工夫することから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価において、課題以外に取り組んだこととして、「実技の関連動画を見て学習する」、「講義でわからない用語を調べる」、「包帯法や三角巾の練習する」など熱心に取り組んでいた。「もっと色々なことを学びたいと思えた」など意欲的な意見があった。 学生が十分に実技練習ができ、技術の定着につながるように看護臨床実習等の科目において練習時間を確保する予定である。また、模擬保健室を活用して、学生が授業や実技の練習に取り組め、さらに学校現場を想定した看護技術の修得ができるよう授業内容を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭の一種免許状資格取得に必要な科目である。基礎的な知識・理解、意欲・関心、技能・表現についてはおおそ達成できた。また、実技演習についてはさらに工夫を重ね、わかりやすい授業構造の改善に取り組みたい。 養護教諭として必要な基礎的な知識や技能が習得できるように、さらに、学校現場の実践において、看護の基礎技術を救急処置等にどのようにいかすのか、また、対人援助職としてどのように支援するのかということを課題ととらえ、授業内容を改善していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護臨床実習	3～4	後期（前期）	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。受講動機としては、「必須科目である」60.9%、「資格取得に必要な科目である」78.3%の学生が答えている。しかし、「関心のある科目である」26.1%であった。このことから目標ははっきりしているが、関心が低いという結果であった。 ②3年生の授業では、2年生での看護学の学習を踏まえ、病院実習における実践的な知識を身につけるために、解剖生理学の復習を授業に取り入れた。また、グループワーク等を取り入れ、具体的な事例を用いて授業を行った。 ③また、4年生の看護臨床実習では病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、学校現場で実際行う救急処置、保健指導などのグループワークなどを取り入れ知識理解の定着を確認し授業を行った。 ④救急処置の演習について、外部講師を招きAEDの使用手法などの実践的な演習を行い、学校現場の事故対応について実践的な授業内容を工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、「養護実習」の履修要件科目である。授業準備性の欄で示したように、受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要であるため」と78.3%が答えている。また、授業到達度自己評価において「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」平均値4.0（中央値4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」平均値4.0（中央値4.0）と答えている。また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標から見ての妥当性 成績評価から、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現ともに高かった。さらに、授業で学んだ知識・理解、思考・判断を授業で表現できるような、授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であると考えられる。また、学生の授業の課題以外に取り組んだこととして、授業内容を活かし、養護実習や教員採用試験の勉強、BLSの動画を見ての予習や復習、さらに解剖学の復習などに取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、「養護実習」の履修要件科目である。授業準備性の欄で示したように、受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要であるため」と86.7%が答えている。また、授業到達度自己評価において「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」平均値 4.0（中央値4.0）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」平均値4.0（中央値4.0）と答えている。「職業選択の参考になった。」平均値4.1（中央値4.0）また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ての妥当性 成績評価から、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現ともに高かった。さらに、授業で学んだ知識・理解、思考・判断を授業で表現できるような、授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であると考ええる。また、学生の授業の課題以外に取り組んだこととして、授業内容を活かし、養護実習や教員採用試験の勉強、BLSの動画を見ての予習や復習、さらに解剖学の復習などに取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生における授業以外に取り組んだこととして、「教員採用試験と共通する部分を勉強した」、「実習校に合わせ必要な看護学的内容をさらに深めた。」などがあった。さらに、学校現場で養護教諭として実践に生かせるような具体的な事例を通して、グループワークやロールプレイを取り入れ授業内容の改善をしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の意見として「実習で見学した疾患について調べた。」、「試験勉強や復習」、「より調べたいと思ったところをインターネット等を利用して学習に取り組みました。」などの意見があった。次年度は、病院実習で経験を養護実習に生かしていけるような授業内容の工夫を行っていきたい。 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目である。さらに、学校現場で専門職として臨機応変に対応できるような実践力と技術を習得できるよう、授業内容の改善に努めていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	東 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
薬理学	3	前期	選択	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・本年度の福祉学科における薬理学の受講者は、アンケートに解答した97%が「資格に必要である」「必修科目である」ため受講していた。 ・例年同様、養護教諭を志す学生であるため、養護教諭に必要な薬理学的知識を含むとした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・最終的な成績の平均点は80点であり、理想的レベルに達したものは59%（2022年度：33%）であり、昨年度より多かった（A：26%、B：33%、C：30%、D：11%）。 ・小テストの得点率76%、期末テストの得点率83%であり、多くの学生は講義の内容を理解し、試験のためにさらに学習して理解を深め一定の成績を収めていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・ 受講動機は、「資格取得に必要である」が多く、養護教諭になるための学生が多かったことから、DP1【知識・理解】のうち、「養護教諭として必要な専門的知識を身につける」ことを目標としている。 ・ 試験の平均点も悪くなく、学生自身による到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と答えた学生は多く、内容の方向性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・ 例年養護教諭を目指す意欲のある学生が受講しており、試験の平均点は悪くないが、今年も成績や自由コメント欄から学生の理解度に幅があったことが伺えた。 ・ オンライン回収になってアンケートの回収率が悪くなっており、全体の傾向を把握できていないかもしれないが、昨年は当該科目の50%程度の学生が予習・復習を行っていたが、今年度は20%にとどまった。今年度は情報量の多いテキストに変更したことも、一因と考えられる。 ・ 他科目の学習課題を優先し本年度は学期末以外に課題を与えなかったが、課題があると真摯に取り組む学生が多いことから、「学習のための情報利用」による時間外学習の推奨もよいかもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・ 学生は最終的に標準レベル以上に達した。 ・ 課題をあえて挙げると、学生自身が養護教諭としてある程度の知識が必要であると感じながらも時間外の学習量が少ない点である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	3	前期	選択	いいえ	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学は選択科目であるが、養護教諭資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である33.3%」、「資格取得に必要である」73.3%で、「関心のある内容である」13.3%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する資料を配布し、できるだけわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は70.1（±7.8）点であり，不合格者は0名でした。標準的レベル（概ね70点以上として試験を作成）に達成した。 ②「自分なりの目標を達成した」と答えた者は100%で、知識理解、意欲関心については目標が達成されたと考えられる。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%であった。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、保健医療関係科目」であり、選択科目である。養教一種免許状に必須である。 ②D P, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識・理解、関心意欲については目標を達成した。今年対面授業だったし、対面で試験を実施した。内容は公衆衛生上重要である疫学調査、感染症に関する知識、対策及び予防方法、分野保健及び医療保険制度についてまとめた試験問題を作成し、学生の知識と考え方を評価した。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.3で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均は3.5で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.8であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、課題解決型学習に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、「様々な研究方法で疫学統計が行われていることが知りました」という意見があった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解の面で課題は達成できたが、関心意欲については課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲のさらなる向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、充実させ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育原理	1	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	基本的には、保育士資格取得のための必須科目であり、全ての学生がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価から、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」からも、学生の主観的な達成度も高いと考える。とはいえ、全体の成績評価結果から、全ての学生について、十分な理解度が得られたかという点と、一部学生については十分ではない結果であった。そのため、やや達成されたとする。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士としての原理原則に関する知識教授を第一義とする講義系科目であることから、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当なものであると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	大学入学後初めての講義ということもあり、学生は意欲的に取り組んでいたと考える。また、学生間の関係性構築のため、グループワークを多く設定したが、学生同士の関係はよく、円滑に授業運営が可能であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価、受講態度から教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 環境	3	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないことと、演習内容として栽培活動があるため、その点については変更しようがない。その他の教授内容については、事例提示だけでなく視聴覚教材を交えての教授を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。今年度の学生は主体性が高く、学生の「到達度自己評価」からも一定の達成度は得られたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であると同時に具体的に「栽培すること」や「作成すること」といった課題があることから、関連D Pについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、C P, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	成績評価、学生の自己評価から、授業の進め方は概ね問題ないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績評価上も教育目標は達成できているとする。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 表現	1	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は乳幼児の「表現」について解説するとともに、他の「領域」との関連から見た「表現」内容を取り扱う。保育士資格の選択必修科目であり、「表現」は、子どもの豊かな成長と関係することから、乳幼児の発達について、他の領域および学科の科目との関連性を意識しながら、受講するよう授業開始にあたって心構えをオリエンテーションで説明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の評価は、小テスト、レポート、発表内容で行った。受講生の70%が80点以上の理想とするレベルに達した。授業評価アンケートの到達度自己評価は、平均値および中央値が4.5-5.0であった。また、授業の質評価は、すべての項目において4.5以上であった。今年度より、新しい教科書を使用することで講義内容の理解を深めることができたと考える。アンケートの記述には、自主的に教科書を読んだり、ノートにまとめたことが記述されており、学生が自ら目標を達成するために学習に取り組んだことが伺える。この点は、昨年とは改善された点である。全体の目標が達成されるためには、保育士に求められる技能獲得の目標を明確に示し、具体的にイメージしながら取り組めるよう、知識に加えて演習を実施することが必要であると考え。学習に対する意欲関心をもてるよう、引き続き授業内容を工夫していきたいと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、保育士資格取得のための必須科目である。特に保育内容に深くかかわる科目であると同時に具体的保育指導案を立てることや模擬保育を行うための知識および演習課題があることから、関連D Pについては妥当であるとする。本科目は実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、C P, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	保育士を目指す学生が、まず自身の豊かな表現活動を体験するための身体、造形、音楽表現について解説と演習を取り入れた授業計画を立てた。前半は主に教科書を用いて解説を行い、後半は演習と発表を中心とした授業内容であり、授業の質の平均値が4,5以上であり、学習量にもある程度の量を確認できたため、授業の内容および進行は適切であったと考える。少人数での授業であったため、発表の振り返りの時間を十分確保でき、全員で話し合いを行うことができた。今後も、到達度（目標）を明確に示すことで、学生が主体的に学習し、自身の課題を認識しながら、他の科目との総合的な学びを深めることができるよう、工夫していきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、表現することが得意な学生にとっては楽しい授業であるが、反対にそうでない学生にとっては、多少の抵抗がある。入学後、学生同士の関係がまだ浅い中、お互いに気持ちを解放することは、難しい。しかし、課題をクリアしていくにつれて、学生の表現が豊かになると感じている。授業では、「自分の殻を破ることができた」という発言があり、表現することの意味を体験することができたと考える。今後も、学生同士がコミュニケーションを取りながら演習を進め、お互いの表現を認め合えるよう、アクティブラーニングを中心に進めて行きたいと考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ファミリーソーシャルワーク論	4	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	受講動機については「関心のある内容である」100%であり、資格取得のための授業ではないにもかかわらず受講しようとする学生の意欲・関心の高さが際立っていた。家族を主題として取り扱う科目は3年次までにないため、学習準備性においては個々の実習等での経験や問題意識により様々であったが、各学生の抱くイメージや考え、新たに知ったこと、気づいたことなどを共有することによって、相互の学習意欲の維持・向上への刺激となること、ディスカッションを引き出すきっかけとなり、新たな知識や視点の獲得、考察を深めることにつながるような事例や視聴覚教材を用いるなど授業計画を立てる上での工夫を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1)に関する「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」において（かなりそうだと思う100%）「思考・判断」（DP2)に関する「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」においては（かなりそうだと思う66.7%、まあまあそうだと思う33.3%）、「関心・意欲」（DP3)に関する「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」においては、（かなりそうだと思う66.7%、まあまあそうだと思う33.3%）であった。これらの数値と授業評価アンケートへの回答者数が受講者数の60%であることを考慮し、「知識・理解」においては「達成された」としたが、「思考・判断」「意欲・関心」においては「やや達成された」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は3年次までのソーシャルワーク関連科目における習得知識を踏まえ、新たな知識の習得、応用発展的な思考や判断する力を養うことを目的とした科目である。このような点において一定程度の成果が得られたことから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性に問題はないと考える。 ②DP行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	資格取得のために必要な科目ではなく、さらに広い知識を得ようと授業の内容に高い関心を抱く学生が受講する科目であったため、学生からの積極的な発言やディスカッションを得たことで各学生の考察をさらに深めることができたと考えます。意欲の高い学生の知的好奇心をさらに引き出すことができるよう、授業で用いる事例の検討や授業計画等、さらなる改善に取り組んでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価、授業の質評価等が示す数値と、学生の授業への取り組みや提出物などから、教育目標はある程度達成できたと考える。新たな知識を得ようとする学生の意欲にこたえることができるよう、改善を行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健	2	前期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」95.8%、「必須科目である」66.7%、「関心がある科目である」37.5%であった。授業では、今まで学修してきた知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。 ②本講義では養護教諭として理解しておく必要がある事項について、基本的内容を中心に講義する。特に2年生後期に開講される「養護概説」との関連を考え授業を展開する。実務経験者としては、児童生徒の今日的な健康課題の解決に向けた実践事例等について、養護教諭の仕事と関連付けながら解説し、演習やグループワークを取り入れた。また、学生が興味がある健康課題についてテーマを設け、個人でプレゼンテーション作成をし、自身の課題としてテーマに取り組めるように授業内容を工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な平均値は 78.0点（±14.6）であった。理想的レベル(90点以上)4名、（80点以上）は13名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、78.0%、思考・判断 80.0 %、関心・意欲80.0%であった。さら授業で基礎的な知識の定着を図りつつ、グループワーク等を通して応用力の定着を図るよう授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては、知識・理解の観点平均値4.6（中央値4.7）、思考・判断の観点平均値4.8(中央値5.0)であり、到達度自己評価にはあまり差はないことが示された。関心・意欲は平均値4.7（中央値5.0）であった。 学生が知識・理解の観点において、基礎的な知識はある程度定着していると考えられる。さらに応用問題が出された場合に、基礎知識を活用し応用問題に対応できるように授業構造を改善していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は、「保健・医療関係科目」である。また、養護教諭一種免許状を取得するための「養護実習」の履修要件科目である。受講動機から見ても多くの学生が「資格取得に必要であるため」と95.8%が答えている。また、到達度自己評価では「知識を修正したり、新たに得ることができた」平均値4.7(中央値5.0)、「専門分野において学びを深めたいと、意欲を持つことができた」平均値4.7(中央値5.0)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」平均値4.7(中央値5.0)「自分が学ぼうとする専門分野の課題を検討する力を得ることができた」平均値4.8(中央値5.0)と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP、行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て、知識・理解に関する達成度78.0%であった。基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度は、2年生後期に開講する「養護概説」との関連を考え授業内容を展開した。特に学校保健の全体の構造や学校保健組織活動、学校環境衛生活動、学校安全危機管理など養護教諭の執務に必要な基礎的な内容を中心に授業を行い、具体的な事例をもとに演習やグループワークを行った。また、養護教諭として求められている、現代的な健康課題への対応について、一人ずつテーマを設け、プレゼンテーションを作成し発表を行った。 学生の学修量の評価として「自分が知らなかった単語のこについて調べたり、養護教諭の取り組みについて詳しく知りたいものについてネットを使い学習に取り組んだ。」、「ニュースを見るように心がけた。」、「図書館に行き関連図書を調べた」などがあった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭の一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識理解の面は概ね達成できたが、学校現場では臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに学校現場で活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。また、事例検討会のシミュレーションをより効果的に授業内容に取り入れていきたい。 さらに授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を設け応用問題等の提示をし応用力の養成に取り組んでいきたい。学生の担当教員への意見としては「講義の最初に先輩たちの取り組みや教員採用状況について教えてくださったのはすごくよかった。あと2年後かーというイメージがしやすく、気を引き締めるためにもすごくよかったです。」、「学校現場の話が聞けたのもっと養護教諭になりたいと思うようになり、今の学校の問題を知れた。」、「養護教諭を目指して頑張ろうと思いました。」などの意見があった。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会的養護Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	参考文献として教科書を利用しながら、教員が作成したパワーポイント資料を用いて解説し理解を深めれるように授業を実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	授業内容の理解については、最終テストで確認したが、50%の学生は十分に理解したと判断できるが残りの50%の学生はそう判断できない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性はあると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	少人数の授業であるので一方通行にならないように学生とのやり取りの中で内容を工夫できた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	半数の学生は目標達成できたが、残りの半数についてはそうではないと判断できるが、受講者が少数であるためその時々授業参加度を見極めながら柔軟に授業内容の提示の方法を工夫する必要がある。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子どもの理解と援助	3	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	基本的には、保育士資格取得のための必須科目であり、全ての学生がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価から、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」から、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。受講人数も少なく、個別に対応も可能であり、理解を促すことができたと考える。					

5. D P、C P、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当なものであると考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講人数が少ないということもあり、比較的時間的な余裕を持って授業を進行できた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。
-----------------------	---------------------------

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子ども家庭支援論	4	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については「資格取得に必要である」100.0%、「関心のある内容である」16.7%(回答者6名中1名)と、授業への関心の低さがみられた。また、家族を主題として取り扱う科目は3年次まででないため、学習準備性においては実習での個々の経験や各資格ごとの専門科目によって個人差があると考えられる。学生の学習意欲を維持・向上させながら、新たな知識や事象を理解する視点を得ることができるよう、多くの具体的事例や視聴覚教材を用いるなどの工夫を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う66.7%、わりにそうだと思う33.3%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う50.0%）、「思考・判断」（DP2）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う50.0%、わりにそうだと思う16.7%）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う66.7%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う50.0%）、「態度」（DP4）においては、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う66.7%）であった。これらの数値から、「知識・理解」においては「達成された」としたが、「思考・判断」「意欲・関心」「態度」においては「やや達成された」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は保育士資格取得に必要な科目であり、新たな知識を習得するとともに、既習科目で得た知識を応用しつつ、いかに捉え、判断し、検討するか、その力を養うことが求められる科目である。このような点において一定程度の成果が得られたことから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性に問題はないと考える。 ②DP行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	最終学年の授業であるため、単なる知識理解に終わらず、様々な社会事象に関心を向け、多角的な視点から捉えようとすることの重要性や面白さに学生自身が気づき、さらに学びを深めることに対していかに意欲を高めていけるかが課題であると考えます。授業の質の評価では、4.0～4.7の評価を得たが、学習量の評価や図書館利用等において課題の残る結果であった。さらに改善に取り組んでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価、授業の質評価等が示す数値と、学生の授業への取り組みや提出物などから、教育目標はある程度達成できたと考える。さらに学生の学びを深める意欲を高め、自発的学習に結びつくよう工夫していくことを来年度の課題としたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
乳児保育Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であり、実践現場についても十分とは言えないがそれぞれ実習で学んだことをさらなる学びに繋げようという意味も感じられる。そのため、講義形式で知識の伝達等に留まらず、演習の中で専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため授業内での学生の興味・関心や技能・経験を把握することに努め、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。課題や小テストについても、概ね真面目に取り組んでおり、それらを確認しながら次の授業を展開した。本授業は乳児保育Ⅰとの関連も深く、Ⅰで身につけた知識が十分に定着していない場合もあるため、折に触れて復習しながら知識の定着に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については大半が達成できたと考えており、成績評価からも「達成された」とした。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性についても個人によって意欲・能力に差異がある。とはいえ、受講人数も少なく、受講意欲が低い学生も数名みられたが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。また、調べ学習を通して「他者から学ぶ」姿勢も身につきつつあると考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D P の知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ごく一部、授業開始時に実施する確認テストが解答できないことがある等、学習習慣が確立していない学生が存在することも伺える。これらの学生に対しては、さらに具体的な学習方法の提示や、課題に対するアセスメントを行いながら、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると考える一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。特に、学生から聞く話では、3年生の1年間は常に実習とその準備、事後の課題に追われている状況が確認できる。とはいえ、資格取得に必要な知識・技術のため、オンデマンド教材や授業の展開方法について、さらに検討が必要であると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価と学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと考え。ただし、本講義の内容を体験的に認識する、もしくは身につくのは、実習に行った際であると考え。そのため、本講義の後に実習に行き、後期には授業がない3年生においては、最終的な確認やフィードバックを得ることが難しい。そのような機会があれば、さらに授業内容に反映できると考える。課題として、身に着けた知識・特に技術が、保育場面の中でなぜ大切なのか、どう活用できるのかという部分のイメージが持ちにくいということである。実習に出ていない状態での授業であるので、なるべく保育現場の写真などを多用しながら進めていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容の理解と方法Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ピアノ奏法の学習準備性においては個人差があるため、あらかじめ楽器およびピアノ等の音楽の経験について調査を質問用紙にて実施した。一人ひとりのレベルに応じた適切な進行計画にするために、オリエンテーションで教員が作成した進行表に基づいて学生と話し合い、まずは長期目標を設定し、その上で学生自身が短期的な目標を達成することによって技術習得への意欲を高めることができるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された					達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、到達度自己評価の「自分なりの目標を達成した」の平均値は4.4であり、学生が目標に向けて取り組んだことが示されている。授業時間外にピアノの自主練習を行ったことが記述されており、学生が技術習得に向けて主体的に取り組んだことが示された。また、音楽の基礎知識においても入学前までに学習している学生とそうでない学生がいたが、音楽理論を同時に解説したことで、理論と実技の両面から理解できたと考える。前期試験の結果から全員が一定程度のレベルに到達することができた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目であると考え。教育目標においてはピアノ奏法のレベルによる目標設定を行ったが、授業内容としては歌唱や人の前に立って表現活動を行うことを取り入れた。また、学習準備性において個人差が大きかったものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいて程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質についての回答は、授業内に行った課題提示を理解していたことが示されている。実技の進行表を作成し、課題を達成する度に教員がチェックを入れ、学生が進度を視覚的に把握できるよう、工夫をした。また試験の評価基準および配点を開示し、昨年度より具体的に試験内容を示し、学生の試験に向けた取り組みに役立つよう改善を行なった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成度自己評価の結果と日々の学生の取り組みの様子から、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年時のみの開講であり2年次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、苦手意識をもった学生へのサポートを充実させ、学生全員が技術習得への意欲を高め、自発的練習につながるようさらに工夫していくことを来年度の課題としたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子育て支援	4	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達である。 そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」においても目標を達成できていると捉えていることが確認でき、成績評価においても概ね基準を満たしていた。特に、多領域の実践者を外部講師として招聘したことで、理解が深まったと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D P の知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	多領域の実践者による、具体的な実践内容の教授とそれに関連する自主学習を組み合わせたことで、より深い理解を得られたと考える。そのため、授業の進め方は問題ないとする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育の計画と評価	4	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目のため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないが、最終学年の実践的な知識が必要な科目のため、事例を交え、個別に対応しながら授業を展開した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された		達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。授業中のプレゼンテーションについても、大半のグループは質の高い発表ができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に中・長期の保育計画について理解し、立案ができるようになることが最大の目標であることから、関連DPについては妥当であるとする。また、保育計画立案のためには、乳幼児の発達について理解していることが前提となるため、開講年次についても、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	長期計画の立案に関しては、基礎的な知識の教授後に実演を交えての課題として設定していたが、学生からの質問が非常に多く、講義の中で実演を予定より増やして提示を行った。結果として、学生の理解が進んだと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	特に長期計画立案については、長期に渡る家庭学習が必要であるが、保育士資格取得の上で特に4年制の保育士養成ということを踏まえると、就職後必ず必要となる内容であるため、教授内容を変更するわけにはいかない成績評価上は概ね良好であるため、問題ないとする。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉の原理と政策Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次・必修）の1つであり、新カリキュラムへの移行に伴い、本年度が1年目の開講となった。内容は、主に社会福祉の諸原理や政策立案・展開に関するものであり、学生にとってはやや難易度が高いと思われる。したがって、授業は教科書を中心に展開し、単元ごとにレジュメを作成した。また、重要語句やポイント等を判別しやすいようレジュメの内容・形式を工夫するとともに、図表・イラスト等も積極的に用いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	期末試験の平均は77.1点であり、この点において教育目標はある程度達成したと考える。各DPの達成度について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う41.2%、わりにそうだと思う35.3%）であり、目標をある程度達成したと言える。「思考判断」（DP2）は、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う41.2%）であり、これも目標をある程度達成したと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う33.3%、わりにそう思う31.4%）であり、ある程度目標を達成したと考える。 一方で、授業評価アンケートでは、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」（していない80.4%）、「授業の予習」（していない70.6%）、「授業の復習」（していない58.8%）など、主体的・自発的学習態度が十分でない学生も多く見受けられ、この点、課題が残ったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 上述の通り、期末試験の平均は77.1点であった。また、各DPにおける学生の到達度自己評価においても、本科目の教育目標はある程度達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は、社会福祉士養成課程の新カリキュラム移行により、本年度、初めて開講された科目である。期末試験の結果や教育目標の達成度を見ても、CP・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の教育目標はある程度達成されたものの、「学習量の評価」（授業の課題以外の学習への取り組み、予習・復習への取り組み）において、課題が残ったと言える。今後は、学生の主体的・自発的な学習態度を引き出す観点から、授業内容や教授方法などの工夫・改善を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生にとってはやや難易度が高いと思われた本科目であったが、教育目標はある程度達成できた。これには単元ごとのレジュメの作成、図表・イラストの積極的活用などが有効であったと考える。引き続きこれらの取り組みを行っていきたい。 一方で、学生の主体的・自発的学習の促進という点では、昨年同様の課題が示された。授業を通して抱いた福祉への興味・関心を自ら能動的に深めていく学習態度をどう培っていくか、今後も考えていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの基盤と専門職	1	前期	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験に関する科目である。特段、社会福祉専門職になるための基盤となる科目であり、本学科で非常に重要な科目であることから、動機付けを大切に講義している。 第一回目の講義時に受講に関しての詳細の説明をし、シラバスに則って講義を進めた。講義の最初には、新聞等から毎時間必ず時事に関する話題を提供し、それが社会福祉専門職としてどのように捉えたらよいかを考えさせる時間を設けた。予習復習の内容の説明、理解しておくべきキーワード、実践につながるように専門職能団体の研修会案内等々も随時行った。リアクションペーパーに関しては、予習復習の時間の記入や、その方法、また本日の自己採点点数記入などを導入し、学習意欲の向上に努めるよう工夫した。また、新カリに移行し、前期が本講義、後期が（専門）となり、それぞれでの評価をすることを説明した。 学生の反応に関しては、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、全員が合格領域に到達しており、標準的レベル以上に達成したものと考えられる。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、遅刻や欠席がほとんどなく、定期試験の結果も理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く社会福祉専門職としての現状や考え方、障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の多岐にわたる分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得するための必須専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、社会福祉を学ぶための1年生で開講する基礎的科目であることから、福祉専門職に興味があるということで、非常に高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解は一定程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができる」の平均点が低かった。必修科目であり、多くの人数が受講する座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思いますが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討していき、次年度の課題とした。学術データベースの利用に関しても殆どなされていない現状であり、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、指導を行いたい。毎時間、予習復習の具体的情報提供を行うことも続けていきたい。次年度も、更なる工夫をすることを考えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、福祉学科に入学して初めての福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように講義を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については、「必修科目である」96.6%、「資格取得に必要である」59.3%、「関心のある内容である」22.0%であった。本科目は1年次の「ソーシャルワークの基盤と専門職」の習得内容の理解を前提としており、2年次より開始となる「ソーシャルワーク実習」に臨むうえで習得理解しておくことが前提となる科目である。カリキュラム改定により実習開始が1年早く位置づけられたことから、実習に向けての準備につながることも意識しソーシャルワークの実際を具体的にイメージできるよう、理論の理解につながりやすい事例を用いて解説することに努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う59.3%、わりにそうだと思う23.7%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う47.5%、わりにそうだと思う30.5%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う57.6%、わりにそうだと思う20.3%）であった。トータルの成績評価の平均は70.2点、定期試験の再試験対象者数は75名中18名(24%)だったが、再試験を受験した学生は全員クリアできたことから、本科目における教育目標は「達成された」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、試験の結果、学生の学習到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次「ソーシャルワークの基盤と専門職」における学習内容の理解を前提とした科目であり、他の関連科目での学習内容も取り入れつつ、「ソーシャルワーク実習」に臨むうえでの学習準備性が整えられるよう、ソーシャルワークを実践するための視点と知識を身につけることを意識した授業内容と展開を心掛けた。内容的妥当性において問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」においては、平均値3.7～4.5であった。「学習量の評価」においては、1回30分程度以上の予習を一度も行っていない学生が40.7%、復習を一度も行っていない学生が25.4%だった。復習中心で自己学習に取り組むことで十分であると考えるが、さらに多くの学生が学びを深めたい意欲をもち、自発的学習につながるような授業の展開を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目において、ソーシャルワークの理論に関する基本的な知識を身につけることはある程度まで達成できたと考える。授業での学びにとどまらず、学生がさらに学びを深めようとする意欲を引き出し、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行ってきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	講義形式の授業であるが、テキストの内容を理解しやすいよう、毎回事例を交え、わかりやすく説明するよう努めた。時に、国家試験を意識したミニテストを行い、テストの用紙には、質問などを記入できるよう工夫した。質問に関しては、翌週に全体で共有した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	国家試験受験に必要な科目であり、講義形式の授業であるが、「コミュニケーション能力を高める」が3.9である以外は4.2～4.5であり、成果はあったと評価する。また、学生の自由記述の「難しい表現をものすごくわかりやすく解説する講義で、わかりやすかったです」、「2年次に得た知識を細部まで確認し、改めて学ぶ機会が多くありました」などからも学習の効果がある程度あったと感じている。また、回答した学生の中で、予習や復習の時間を取っていたこともわかり、自己学習を促す効果も、一部あったと感じている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	上記評価とも重複するが、「受講動機」、「到達度の自己評価」、自由記述などから、本科目の位置づけからみた内容には妥当性があると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	社会福祉の対人援助職が身に着けておく姿勢や倫理観も含め、知識と技術を身に着けるものであることから、関連DPについては妥当であると考える。レジメの空欄への記入について、追いつかない学生もいるようなので、後期は前期よりも教科書と照らし合わせた説明を行うこととする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的な方向性は現状を基本とする。ただし、学生の自己学習を促す機会を増やす工夫として、時に自己学習でレジメをまとめることなどを取り入れた。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期は、地域福祉の基礎概念や民生委員、社会福祉協議会、共同募金等の地域福祉を推進する主体について講義を展開した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止について配慮し、対面授業を展開した。①講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域福祉の視点は、福祉専門職のみならず、教職・保育などと地域を担う支援者において横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。②初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。③レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。④本講義の特性上、地域福祉に係る知識の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本年度は、全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、（3）「事象（自然、人、社会、歴史など）」を理解する視点や考え方を得ることができた」と（4）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」が平均値4.4と最も高かった。次に（2）（9）（5）の順であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、地域福祉の観点からその知識について問うものである。地域福祉の概念・歴史、法律・制度、近年の地域福祉の問題等については、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、地域福祉の概念・歴史、法律・制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向等についての表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.9と全体数値よりも低かった。本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。そのため、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.9と全体数値よりも低かった。しかしながら、本科目は講義科目である性質を踏まえ、前期にて教授した地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等については学生に対して講話法やレジュメ資料・映像資料等を通して伝えることができたと考え。より学生の学びの理解を深めるためには、前記のように学生の考え、話し合い、発表する機会を設けるための工夫を行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会保障Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は41名（回答率51.9%）であった。受講動機を見ると、「必修科目である」95.1%、「資格取得に必要である」65.9%であった。本学科における必修科目であるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、医療保険・介護保険を中心に、法改正が頻繁に行われる社会保障制度について、最新の情報を提供することに努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、授業中の確認テスト・コメント、前期試験を用いて行った。素点の平均点は71.90点（福祉・養護教諭コース2年73.25点、子ども家庭福祉コース2年60.33点）であった。全体の平均点はほぼ昨年度並みである。また、再試対象者は14名（ほか、出席数不足1名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は7名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値は4.1であり、その他の項目の平均値については「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除くその他の項目の平均値は3.9-4.0であった。平均値は昨年度より0.1-0.2下回っている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.2、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値はいずれも4.1、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.0であった。これについては、いずれの項目も昨年度より平均値が0.4下回っている。学習量について、予習をしていない学生が21名、復習をしていない学生が18名と、いずれもアンケートに回答した学生は授業以外の学習をしていない状況にある。授業以外の課題に取り組んでいない理由については、「講義の内容で十分だと感じたから」、「時間がなかった」、「他の教科を優先したから」などの回答がみられた。他方、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「復習」、「教科書よんだ」のほか、「ニュースなどを観て学んだ」、「インターネットで調べた」などの回答があった。学生の意見について、「休憩が間にあるのがよかったです」、「学生からの質問に回答する時間を設けてくれていたので、より理解を深めることができてとてもよかったと思います」との肯定的な意見のほか、「急にデカイ声で話されるのが不快だった。バカにしているような口調が多かった」との意見があった。これについては、授業態度がよくない一部の学生に対する注意が、あたかも自分が注意されたかのように感じられたのではないと思われる。適切な指導方法を考えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えており、現時点で改善すべき点は特になく考える。後期の「社会保障II」でも、引き続き社会保障制度の知識理解、意欲関心を高めていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者福祉	2	前期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、2年生を対象とした福祉専門科目（必修）であり、社会福祉士指定科目の1つでもある。新カリキュラムに移行してから、本年度が2年目の開講となった。授業では、教科書を中心に展開し、単元ごとにレジュメを作成するなど、学生の内容理解を助けた。また、重要語句やポイントが判別しやすいようレジュメの内容・形式を工夫した（レジュメを空欄にし、学生が直接記入）。さらに、毎回の授業後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	期末試験の平均は73.8点であった。再試験の受験者は11名おり、このうち2名が不合格となった（1名は再試験受験なし）。各DPの達成度について、学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う23.2%、かなりそうだと思う53.6%）となっており、目標はある程度達成されたと言える。「思考判断」（DP2）については、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」（わりにそうだと思う36.2%、かなりそうだと思う39.1%）であり、これも目標のある程度達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野ついて、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う20.3%、かなりそうだと思う50.7%）であり、目標のある程度達成できたと言える。 一方で、授業評価アンケートからは、本科目を通して知識の修得はできたものの、学生の主体的学習態度を引き出すと言う点で課題があることが明らかとなった。例えば、学生が授業の課題以外に学習に取り組んだ割合は、「していない」（55.1%）であった。また、授業参加のための準備学習（30分程度の予習）をしていない学生が49.3%、授業の復習をしていない学生が27.5%見られた。 以上のことから、全体として目標は「やや達成された」と言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 試験結果および各DPの学生の達成度自己評価結果（教育目標は「ある程度達成」）から見て、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は福祉専門科目（必修）であり、社会福祉士指定科目でもある。ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの領域の1つに高齢者福祉領域があることから、本科目の配当年次に問題はないと考える。また、教育目標もある程度達成しており、CP・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	全体的教育目標としてはある程度達成したと判断できる一方で、試験結果（再試験者11名）や学生の主体的な学習態度（授業課題以外の学習への取り組み、予習・復習、）といった点では課題が残ったと言える。昨年度同様に、毎回の授業ごとに予習・復習のポイントを的確に提示し、学習量の確保や主体的な学習態度を促していく必要があると考える。また、課題を課すことも検討する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	上述の通り、試験結果において再試験者が11名となった一方で、90点以上（優）を得点した学生が17名見られた。個々の理解度・習熟度に差があることが推察され、今後は、毎回提出させるコメントカードの内容を踏まえた復習や小テストの定期的実施も必要と思われる。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
児童・家庭福祉	2	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	すべての子どもが適切に養育され、生活と成長・発達が保障され、その意見が尊重されること、保護者の子育てや子育て家庭の生活を社会全体で支えていくことなど、子ども家庭福祉の理念とその実現のための法制度の整備や子ども家庭福祉領域でのソーシャルワーク実践がいかに進められているのかを取り上げる授業である。学生の受講動機としては、「必修科目である」98.2%、「資格取得に必要である」66.1%に対し、「関心のある内容である」は26.8%と低い割合にとどまっている。養護教諭や保育士など、子どもと家庭を支援する職種を目指す学生にとっては特に重要な科目であるため、現代社会における子どもと家庭をめぐる状況や諸問題について事例などを取りあげるとともに、社会構造や人々の価値観の変化などについても詳細に取り上げることにより問題意識や多角的な視点をもつきっかけとなることを目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う62.5%、わりにそうだと思う25.0%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う55.4%、わりにそうだと思う26.8%）、「意欲関心」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う58.9%、わりにそうだと思う25.0%）であった。総合的な成績評価の平均は68.9点であり、再試験対象者は88名中15名（17%）だったが、再試験受験者はすべてクリアできたため、「知識理解」「意欲関心」とともに教育目標は「達成された」とした。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、試験の結果、学生の学習到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次開講の「社会福祉の基礎を学ぶ」科目を土台として「社会福祉の専門を学ぶ」各論科目の一つである。他の関連科目での既習内容も取り入れつつ、子どもと家庭の現状を理解し、「ソーシャルワーク演習」や「ソーシャルワーク実習」等で実践的な学びを深めることにつながるような授業内容と展開を心掛けた。内容的妥当性において問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」においては、平均値3.8～4.5であった。「学習量の評価」においては、1回30分程度以上の予習を一度も行っていない学生が53.6%、復習を一度も行っていない学生は30.4%だった。復習中心で自己学習に取り組むことで十分であると考えているが、さらに多くの学生が学びを深めたい意欲をもち、自発的学習につながるような授業の展開を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目において、児童・家庭福祉に関する基本的な知識を身につけることは一定程度達成できたと考える。授業での学びにとどまらず、学生がさらに学びを深めようとする意欲を引き出し、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
貧困に対する支援	3	前期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は28名、回答率は35.9%にとどまった。受講動機を見ると、「必修科目である」100%、「資格取得に必要である」42.9%であった。なお「関心のある内容である」は3.6%にとどまったが、これは、カリキュラム改定により、今年度より必修科目となったことで、昨年度（公的扶助論）の回答と比べて、「仕方なく受講している」感がみられる内容となっている。また、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置くとともに、生活保護の被保護者に対して、ネットではびこっている偏見を決して鵜呑みにすることのないよう、生活保護制度の理念・原理・原則や制度の正確な内容、および被保護世帯の実態を正確に伝えることに重点を置いた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価は、授業中の確認テスト・コメント、前期試験を用いて行った。素点の平均点は72.08点（福祉養護教諭コース71.65点、子ども家庭福祉コース78.83点）であった。理想的レベル（90点以上）に達した者は7名、不可と評価した者は16名であった。昨年度の平均点(76.47点)を下回っているが、これについては、やむを得ない事由による欠席を除く通常の欠席を3回以上した学生が30名と、全体の4割近くに上ったことで、授業の理解度が不十分な学生が多かったことによると思われる。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.1、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値がいずれも4.0であり、「コミュニケーション能力や表現力と高めることができた」を除く項目の平均値はいずれも3.9であった。全体的に昨年度とほぼ同様の数値を示している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であるとする。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であるとする。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.4、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.1、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.0であり、昨年度とほぼ同水準を維持している。他方、「1回30分程度以上の準備」を行っていない学生は20名、「1回30分程度以上の復習」を行っていない学生は18名、授業以外の課題に取り組んでいない学生は19名で、学習をしていない割合は昨年度より増加している。授業の課題以外に学習していない理由として「講義内容で十分だった」、「他の科目の課題で精一杯だったため」、「取り組める時間がなかった」という意見が見られた一方で、授業の課題以外に具体的に具体的に取り組んだ学習に「授業の復習をした」、「授業の中で気になったことを自分なりに調べた」、「教科書を読んだ」、「過去問に取り組んだ」などの回答があった。学生からの意見は特になかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断についてはある程度達成できたといえるが、必修科目であるにもかかわらず4割近くの学生の出席率が80%以下であることから、意欲関心については課題が残す結果となった。これについては、この科目のカリキュラム全体の意義について学生に伝わる方策を考えていく必要があると思われる。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健医療と福祉	2	前期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は教養としてではなく、将来的に様々な領域で専門職として就くことを目指すのであれば、医療領域を目指す者だが学べば良いのではない。自分自身、家族を含め、関わりをもつ子ども、高齢者、障害者一人ひとりの健康面で病気、ケガをしない者はいないと考える。他人事ではなく我がごととして理解しておくことが求められる問題であると説明し講義した。また、現実社会において起きている事象に関心を持ち、突然に襲う病気やケガから経済的、社会的、精神的な問題を抱え苦しめていることを対象者と出会ってから知るのではなく人々の実情を理解できるよう具体的に指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価は一応の理解はできるものの、「まあそう思う」が主な回答になっており、評価は高いとは言えないが成果としては到達できたと考ええる。しかし、「学びを深めたいと意欲をもつことができた」と答える者がいたことは喜ばしい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価DP一応の理解はできるものの、「まあそう思う」が主な回答になっており、評価は高いとはいえないが学んだ成果として到達できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	シラバスに沿い、教科書を中心に進めたものの、結果として1セッションごとに講義が終わらず、理解し辛かった点は反省する。しかし、実践的な話に対する興味をもってくれる者もあり、今後は話とともに区切れよく講義を進めていくことにする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の進路がいずれの領域になるにしても、医療は切り離せるものではなく学んでおくべきだと思う。 実践現場における問題や起こりうることなどに対応できる知識の習得を考えるとあまり、話が多くなってしまったことは反省する。しかし、具体的に援助していく際にどのように理解し解決調整して行くのかを指導していきたい。数は少なくとも意図したことを理解してくれているコメントからも学習達成していると考え。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・選択）の1つであり、ソーシャルワーク（専門）Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと連動し、教員4名のオムニバス形式で展開している。新カリキュラムへの移行後、本年度が2回目の開講となった。主な内容は、各教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、医療福祉、学校福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「必修科目である」（93.3%）が最も多く、次に「資格取得に必要である」（73.3%）が見られた。一方、「関心のある内容である」は20.0%となっており、昨年同様に学生の関心・意欲等を高める授業内容・展開を工夫する必要があると考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成されなかった		やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成度について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う46.7%、わりにそうだと思う13.3%）となっており、目標はやや達成されなかったと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う40.0%、わりにそうだと思う20.0%）であり、これも目標はやや達成されなかったと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う40.0%、わりにそうだと思う13.3%）であり、目標はやや達成されなかった。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う26.7%、わりにそうだと思う40.0%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う40.0%、わりにそうだと思う13.3%）であり、目標はやや達成されたと考える。 また、学習量の評価（予習0回53.3%、復習0回53.3%）や授業課題以外の学習への取り組み（「なし」66.7%）を見ると、学生の主体的学習態度の涵養という点でも課題が残ったと言える。 以上のことから、本科目の教育目標は「やや達成されなかった」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の到達度自己評価による教育目標の評価結果は「やや達成されなかった」ものの、本科目はソーシャルワーク実習（2年次、3年次）の履修を前提とした科目であり、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP,カリキュラム上の位置づけ 本科目はソーシャルワークの専門的視点、態度、知識、技術を実践的に修得するものである。これらの学びはソーシャルワーク実習（2年次、3年次）の展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教育目標は「やや達成されなかった」ことに加え、学生の学習量の確保や主体的学習態度の涵養という点でも課題が残った。既述の通り、本科目はソーシャルワークⅡ・Ⅲ・Ⅳと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	上述の通り、本年度の授業運営においては多くの課題が見られた。引き続き担当教員間の連携を図り、授業内容・展開方法の質の向上を目指したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は2年次の社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目である。 学生の受講動機をみると、「必修科目である」が81.3%、「資格取得に必要である」が81.3%、「関心のある内容である」は31.3%であり、多くは資格取得のための履修であるが、例年と比較し「関心のある内容である」と回答した学生が若干多かった。 本科目では、福祉的課題を抱えた人々に対する支援事例を活用し、ソーシャルワークの展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。本演習は2年次の学生が対象であり、ソーシャルワークの専門的知識を習得する前段階での演習となるため、ソーシャルワークに関する基礎的な知識や技術等を再確認しながら、実習で実践的に用いられるソーシャルワークの視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。そのため、ロールプレイの機会等をできるだけ設けるようにした。また、ソーシャルワークの実践ではチームアプローチが基本となるため、グループワークを基本とし、学生同士の意見交換から課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は、84点、中央値は84.5点であり、優秀な成績であった。学生の学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.3、中央値4.0で、目標は「達成された」と判断した。各項目をみると、DP2の「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.5、中央値5.0、DP3の「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.5、中央値5.0、DP4の「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が平均値4.6、中央値5.0、DP5の「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値4.6、中央値5.0であったため、目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価の各項目は、平均値4.5-4.7、中央値5.0であり、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかったため、授業の質は問題なかったと判断した。 自発的学習においては、50%が「取り組んだ」と回答しており、「グループワークをするうえで必要になる調べ物をした」「分からない言葉や、授業で理解できなかったワードなどは家で改めて調べ直した」との記述があった。事例学習やグループワークを通じて、自発的学習を促せたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。担当教員への意見として、「グループワークの重要性を改めて学ぶことができた」「みんなで話し合うことはとても充実した時間だった」との記述があり、「学生同士の意見交換から課題解決を導けるような演習」という目標は一定程度達成されたと考える。また4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考えるが、新カリキュラムに移行したばかりの科目であるため、学生の実習における達成度評価等も踏まえ、次年度以降も教授内容を検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの相談援助系の科目を通して学んだことを踏まえて、1いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、2課題を抱えた人々(当事者)の状況、3ソーシャルワーカー(社会福祉士)による具体的な支援内容、4ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的とした。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止について配慮して、対面による授業を展開した。 ① グループワーク等を中心に、基礎的な視点に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、（8）「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値4.8と最も高く、（1）「自分なりの目標を達成できた」の他、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」から（7）「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、（9）「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」は平均値4.7であった。3「授業の質評価」は中央値のほぼ水準であった。 知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、②課題を抱えた人々(当事者)の状況、③ソーシャルワーカーによる具体的な支援内容、④ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めた。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、ソーシャルワーカーの社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、ソーシャルワーカーがどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。4年次の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。職業選択に関する達成度が比較的低かった。しかし、3年生の段階では自分自身の将来の選択肢について、その専門性を高め、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、（10）「職業選択の参考になった」は全体の全体数値よりも低かった。本年度は、地域社会における福祉の問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもち、グループディスカッションに取り組むことができた。科目の性質上、社会福祉における知識・技術、価値、専門性をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面においてソーシャルワーカーが社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉実践の展開を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と事例を通してみた福祉専門職としての実践の在り方については概ね達成できたが、地域や多様な生活場面に応じた実践をする上での相談援助技術の面で課題を残した。この点は、次のソーシャルワーク演習（専門）IIにおいてソーシャルワーカーが対応する実践事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教員の現場経験を基本にした事例を用いながら、個人ワークとグループワークを取り入れた。個人ワークでまず、自分で考え、グループワークでは、自分の考えを発現する力、他人の意見を聞く力がつくことを意識し、授業を進めた。また、質問については、授業中や、ワークシートの感想を提出してもらうときに記入してもらうよう伝え、質問があった場合には、翌週に全員で共有できるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による自己評価は、4.5～4.8であり、概ね目標は達成された。また、「コミュニケーション能力を高めることができた」との回答は4.7であった。このことから毎回のグループワークやロールプレイは有効であったと評価する。加えて、学生の自由記述で、「グループワークでの学びがあった」と記載するコメントが複数あった。また、自己学習を行っていた記述もあり、学習量の評価からも、予習や復習を行った学生が半数以上いたことから、自己学習にもつながっていたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の内容については、上記の内容と、学生の自由記述にも「現場での話をたくさん聞くことができ、勉強になった。楽しめる様々なワークで、楽しく学ぶことができた」との意見からも妥当であったと考える。ただし、自己学習などへの取り組みに関し、さらに研鑽を積む学生が増えるよう、意識して取り組みたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	意見の中に、「経験談などからとてもわかりやすかった。人を支援するときの心構えなどをきちんと学ぶことができました」や「考えたことのなかったことを考える時間になった」など、グループワークでの学びを書いている学生が数名いた。このことから、授業の進め方については今のスタイルと基本に考えていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体としては目標は達成したと考える。今後、さらにわかりやすさや、学生の自己学習の向上につながるよう努力したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	3	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次対象・選択）の1つであり、ソーシャルワーク（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅳと連動し、教員4名のオムニバス形式で展開している。新カリキュラムへの移行後、本年度が最初の開講となった。主な内容は、各教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、医療福祉、学校福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（66.7%）が最も多く、次に「必修科目である」（55.6%）が見られた。一方で、「関心のある内容である」は0%となっており、学生の関心・意欲等を高める授業内容・展開を工夫する必要があると考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成度について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う44.4%、わりにそうだと思う22.2%）となっており、目標はやや達成されたと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う55.6%、わりにそうだと思う22.2%）であり、これも目標はやや達成されたと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う44.4%）であり、目標はやや達成されたと言える。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う55.6%、わりにそうだと思う22.2%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う55.6%、わりにそうだと思う11.1%）であり、目標はやや達成されたと考える。 以上のことから、教育目標はやや達成したと考える。しかし、学習量の評価（予習0回77.8%、復習0回55.6%）や授業課題以外の学習への取り組み（なし100%）を見ると、学生の主体的学習態度の涵養という点で課題が残ったと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の到達度自己評価による教育目標の評価結果（「やや達成された」）から、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP,カリキュラム上の位置づけ 本科目はソーシャルワークの専門的視点、態度、知識、技術を実践的に修得するものである。これらの学びはソーシャルワーク実習（2年次、3年次）の展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教育目標は「やや達成された」と評価できる一方で、学生の学習量の確保や主体的学習態度の涵養という点では課題が残った。既述の通り、本科目はソーシャルワークⅠ・Ⅱ・Ⅳと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度、科目の教育目標はやや達成された。今後も引き続き担当教員間の連携を図り、授業内容・展開方法の質の向上を目指したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	3	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、講義系の科目を通して学んだことを踏まえて、①いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、②課題を抱えた人々(当事者)の状況、③ソーシャルワーカーによる具体的な支援内容、④ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的としている。方法は、演習事例を用いたロールプレイやグループワーク・グループ討議に取り組んでいる。また調べ物学習をおこない発表を交えて、体験的な学びが得られるよう指導に心がけた。本科目を通して、①近年,メディアでも取り上げられる社会的問題とされる家族(当事者含む)が抱える課題(児童虐待,高齢者虐待,DV,不登校,ひきこもり,介護等)について理解し,説明できること、②いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景について理解し,説明できること、③ソーシャルワーカーによる具体的な支援内容について理解し,説明できること、④ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について理解し,説明できること、⑤基本的なコミュニケーション技術について理解し,活用できることを、到達目標として掲げた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、すべての項目において、平均値が5.0と最も高かった。しかし、回答者が2名のみであるため、残りの学生の回答を得られなかったことが考えられる。今後、受講するすべての学生の回答を得られるよう、教務課と協働し取り組む必要がある。 相談援助に携わる上で、①いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、②課題を抱えた人々(当事者)の状況、③ソーシャルワーカーによる具体的な支援内容、④ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めた。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、ソーシャルワーカーの社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の専門的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、ソーシャルワーカーがどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。4年次の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。職業選択に関する達成度が比較的低くかった。しかし、3年生の段階では自分自身の将来の選択肢について、その専門性を高め、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、すべての項目において平均値5.0であった。しかしながら、回答者が2名のみであったため、残りの学生の回答を含めると内容に変更が生じると考えられる。次年度は、すべての学生に回答の協力が得られるよう教務課と共に務める必要がある。本年度は、地域社会における福祉的問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもち、グループディスカッションに取り組むことができた。科目の性質上、社会福祉における知識・技術、価値、専門性をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面においてソーシャルワーカーが社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉実践の展開を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と事例を通してみた福祉専門職としての実践の在り方については概ね達成できたが、地域や多様な生活場面に応じた実践をする上での相談援助技術の面で課題を残した。この点は、次のソーシャルワーク演習（専門）Ⅳにおいてソーシャルワーカーが対応する実践事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	事例を用いながら個人ワークとグループワークを取り入れた。個人ワークでまず、自分で考え、グループワークでは、自分の考えを発現する力、他人の意見を聞く力、グループ内で様々な意見が出たときに、多数決でなく、話し合いでまとめる力がつくことを意識し、授業を進めた。さらに、ロールプレイも取り入れ、クライアント体験を行うことで、クライアントの気持ちを理解する機会も設けた。さらに、ワークを通して、価値や倫理、人の尊厳などにも触れる説明を行った。また、質問については、授業中や、ワークシートの感想を提出してもらったときに記入してもらおうよう伝え、質問があった場合には、翌週に全員で共有できるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による自己評価を見ると、全体で4.3～4.8、「新たな知見を得ること」や、「コミュニケーション能力を高める項目」については、4.7という結果から考え、一応の目標は達成できたと考える。また、職業倫理と照らし合わせて考えることにつき、4.3という結果を見ると、一定の基準は達成していると考えられる。しかし、今後、更に職業倫理との関連もわかりやすく伝える工夫を検討したい。また、自己学習も、時間の程度の差はあるがアンケートの回答者全員が行っていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の「受講動機」、「到達度の自己評価」などからみて、内容的には妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生「授業の質の評価は4.3～4.8であり、内容的には妥当であると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「経験を踏まえたワークや考え方を知ることができ、たくさん学べた」などの回答から授業の進め方としての基本は、今のままで行うが、職業倫理などとの関連性などは学生が興味を持ち、取り組めるよう更に工夫をしたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目である。 本演習は、社会福祉士のカリキュラム改定により、本年度より新カリキュラムに移行した。 学生の受講動機をみると、「必修科目である」が70.0%、「資格取得に必要である」が70.0%、「関心のある内容である」は20.0%であり、多くは資格取得のための履修であることがうかがえる。 本科目では、福祉的課題を抱えた人々に対する支援事例を活用し、ソーシャルワークの展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。本演習は「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を修了している学生が履修しているため、学習準備性は一定程度あると考えられる。そのため実習で実践的に用いられるソーシャルワークの視点や職業倫理、援助技術を再確認しつつ、応用的な事例について課題検討できるような機会やロールプレイの機会をできるだけ設けるよう工夫した。また、ソーシャルワークの実践ではチームアプローチが基本となるため、グループワークを基本とし、学生同士の意見交換から課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績の平均値は、81.1点、中央値は83.5点であり、標準的な成績であった。学生の学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.0、中央値4.0で、目標は「達成された」と判断した。各項目をみると、DP2の「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.4、4.0、中央値4.5、4.0、DP3の「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.3、中央値4.5、DP4の「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が平均値4.2、中央値4.0、DP5の「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値4.3、中央値4.5、4.0であったため、目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価の各項目は、平均値4.2-4.4、中央値4.5-5.0であり、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかったため、授業の質は問題なかったと判断した。 学習量の評価について、自発的学習に「取り組んだ」学生は20%と少なく、自由記述の内容をみると、「授業内で復習ができた」、「授業内の課題で取り組むことが出来た」といった記述がみられた。講義を通してさらに自発的な学習が促進されるような内容を提示していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考えるが、新カリキュラムに移行したばかりの科目であるため、学生の実習における達成度評価等も踏まえ、次年度以降も教授内容を検討していきたい。また、講義を通してさらに自発的な学習が促進されるような内容を提示していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神障害リハビリテーション論	3	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機をみると、最も高い数値を示したのが「資格取得に必要である」の63.6%であり、受講生の多くが資格取得を目的とした履修であることがうかがえる。本科目が精神保健福祉士国家試験受験資格に関する科目であることから、授業では、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めた。また、必要に応じて実践事例を紹介することで、授業内容の実践的理解が深まるよう努めた。また、適宜リアクションペーパーを用いて学生の授業理解度を把握するよう努め、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	成績評価については、定期試験、レポート、授業への参加度を踏まえて総合的にを行った。その結果、全体の成績は平均87.8点であった。学生の到達度自己評価「（1）自分なりの目標を達成した」の項目では、平均値4.2点（かなりそうだと思う36.4%、わりにそうだと思う45.5%、まあまあそうだと思う18.2%）であり、目標は達成されたと考える。「知識理解」については、「（2）知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.5点、「（3）事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.5点であり、目標は達成されたといえる。「思考判断」は、「（4）自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値が4.3点、「（5）自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値が4.3点であることから、目標は達成できたと考える。また、「意欲関心」についても、「（6）自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.5点であるため、目標は達成できたと伝えよう。「態度」については、「（9）職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.2点であるため、目標は達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「精神保健福祉関係科目」において精神保健福祉実践の展開を学ぶ位置付けである。授業準備の欄にも示した通り、学生の受講動機は約63.6%の学生が資格取得を目的としたものであったが、受講態度や課題等への取り組み状況から、メンタルヘルス領域への高い興味や関心が感じられた。また、学生の自己評価や成績評価から一定程度の成果が得られたことから、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、「（3）説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.5点（かなりそうだと思う63.6%、わりにそうだと思う18.2%、まあまあそうだと思う18.2%）であり、否定的な評価をした学生はいなかった。学習準備性を高めることを目的に、適宜、参考資料や補足資料等の配布を行ったが、学習量の評価をみると継続的に予復習に取り組んだ学生は全体の1割にも満たず、課題を残す結果となった。この点について、課題内容や課題への取り組み方法等を明確化し、学生の理解向上に取り組み、予復習の定着を図っていきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「精神保健福祉関係科目」において精神保健福祉実践の展開を学ぶ位置づけから、教育目標の知識理解、思考判断、意欲関心、態度については達成できたと考える。他方、学生の学修準備性を高めるためのと仕組みに見直しを要することが明らかとなったことから、次年度に向けた課題として改善を行い、授業の質的向上に努めたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の原理Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、精神保健福祉士が国家資格化される以前からの精神医学ソーシャルワークの発展と継承を踏まえた、精神保健福祉士の専門性を確立するための基盤科目となる。精神保健医療福祉に関する法律や制度の歴史的変遷を学び、精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク専門職としての精神保健福祉士の存在意義について理解を深める。精神保健福祉士の視点や考え方、行動について学び、誰もが心の健康(メンタルヘルス)を保ち、また不調を改善して自分の意思に基づく主体的な生活を送ることを支えるソーシャルワーク実践について考察する。具体的には、講義による学び、映像視聴、学びを踏まえた意見交換やグループディスカッション等の方法を用いる。本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。本講義の特性上、精神保健福祉に係る知識の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	本年度は、全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.4と最も高かった。次に（3）（4）（5）（6）の順であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、精神保健福祉についての基本的な知識を、学ぶ内容である。精神保健医療福祉に関する法律や制度の歴史的変遷を学び、精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク専門職としての精神保健福祉士の存在意義などについては、広範な情報量となるため、これまでの歴史的な背景をはじめとして、現代の社会問題に関連させ、精神保健福祉士の社会的な役割について示すことで、今後も学生の学びを促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、精神保健福祉に関する基本的な知識を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「精神保健福祉専門科目」では、精神保健福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、選択科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は精神保健福祉についての基本的な知識を、学ぶ内容である。精神保健医療福祉に関する法律や制度の歴史の変遷を学び、精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク専門職としての精神保健福祉士の存在意義などの理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の実習に向けての横断的な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による精神保健の実情(福祉の課題、動向等)、福祉法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉の課題、動向等)、福祉法制度・サービスの動向等についての表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.6と全体数値よりも低かった。本科目は精神保健福祉に関する基本的な知識を踏まえて、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の精神保健福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。そのため、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.6と全体数値よりも低かった。しかしながら、本科目は講義科目である性質を踏まえ、精神保健福祉に関する基本的な知識について教授した。レジュメ資料・映像資料等を通して伝えることができたとする。より学生の学びの理解を深めるためには、前記のように学生の考え、話し合い、発表する機会を設けるための工夫を今後も行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの理論と方法（専門） A	3	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であることから、他の社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格科目との関連性を考慮して講義を行った。 具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1, 2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習に伴う補講の件、理解を深めるための専門職能団体のWebでの研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを実施したり、学修状況確認のために、8回目あたりに講義中に中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにパワーポイントを使用し、レジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達していた。従って、標準的レベルには達成できているものと思われる。また、定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に成績評価を行った。 また、80点以上が半数を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く、司法や障害福祉、精神保健福祉（メンタルヘルス）、貧困等々の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。 また、精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得しない学生の受講もあったが、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味があるということで、意欲を感じられた。 学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。 以上のようなことから、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が低かった。座学中心であり、可能な限り事例等の導入をして、かつ視聴覚的なDVDも含めたアクティブな活動を入れ込む努力を行ったが、工夫が足りなかったのかもしれない。 次年度に向けて更なる工夫をすることを課題としたい。 学術データベースの利用に関しても、利用の仕方からのインフォメーションを行ったにもかかわらず、殆どなされてない状況であるので、具体的に示していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するための必須科目であり、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて講義を行ったが、2年次に精神保健福祉に関する他の講義等を受講していない学生（進路変更者等や、メンタルヘルスや障害福祉領域、医療福祉領域に関心を持つ者）も受講していることから、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後期にこの講義のBが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供したりDVDの視聴をして検討を行ったが、さらなる方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習に関して具体的な指示を出すようにし、理解を深めていく。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
心理学と心理的支援Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」78.7%、「資格に必要である」44.7%、「関心のある内容である」34.0%、「単位数を確保する」14.9%、「GPAをあげる」4.3%、「友人が履修している」4.3%、「先輩に勧められた」2.1%であった。本科目は、社会福祉士国家試験受験資格に必修の科目であるため、「必修科目」「資格に必要」と答えた学生の比率が高い。 1年次科目であるため、まずは資格取得科目として受講してみようかという学生が中心である。また、本科目は学生が初めて心理学の基礎的理論や研究に触れる科目であることから、できるだけ具体的な例を挙げて、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。 毎回、授業前に前回の復習として、授業の流れを振り返り、繰り返し説明することで、知識の定着を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は68.69点であった。80点以上の理想的レベルの者の割合は20.0%、60点～79点の標準レベルの者の割合は54.0%であった。再試験で合格した者を含めると、採点対象者のうち93.2%の者は標準～理想的レベルの目標達成ができたと考えられる。 学生の自己評価においては「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均点は4.2点であった。それ以外の項目も「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」意外は4.0点以上であった。 「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目も平均点は4.2であり、自由記述にも「たくさん知識を得ることができた」「とても興味が持てた」との感想が述べられており、授業を通して学ぶ意欲を引き出すことができたことが伺える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、卒業必修ではないが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験必修科目である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を養うには、人のこころの理解は基礎である。したがって、1年次の心理学と心理的支援の学習は重要でかつ妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.1であり、教授内容を質、量ともに概ね適切に伝達することができた。「プリントで学習するだけで十分知識が身に着くと思った」「説明は分かりやすいと感じた」という意見が得られた。 「授業の課題以外に学習に取り組んだ」学生は、32%、昨年度よりも自発的学習をする学生の割合は減っている。取り組んだ学生は、「復習」「見直し」「心理学に関する本を読んだ」「ノートをまとめた」「本を買った」「次の範囲のテキストを読んだ」など、日々の学習を大切にしているようであった。 一度も予習に取り組んでいない学生は55.3%、一度も復習に取り組んでいない学生は53.2%であった。課題以外に学習に取り組んでいない理由に「予習復習を徹底した」「授業内で十分に理解することができた」という意見があった。 課題以外に取り組んでいない理由に「他のことに熱心であった」「何に取り組めばよいかわからなかった」という自由記述がみられたことは残念である。「テスト前に勉強すればいいと思ったから」という学生の意見とともに「心理学は想像以上に覚えることが多く大変だと感じました」という意見もみられた。教員としては、小レポートの課題のあり方を工夫することで、学生の学修ペースができるよう検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成について、概ね達成できた。 予習・復習および自主的な学修を行うことが難しい学生が半数近くみられることから、学生の日々の学修のあり方を考える機会となるような課題の出し方を検討していきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	石川 崇彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医学概論	2	前期	必修		78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	医学概論は内科学を中心に小児科、精神科、健康、疫学の分野にわたり解剖、生理、主要な疾病についての概念、症状、検査、治療などを解説する系統講義です。疾病の知識は、将来に社会福祉士として医療や福祉分野で他職種のスタッフや、クライアントとその家族らと円滑にコミュニケーションをする上で必要です。社会福祉士の国家試験にこの領域からも例年出題されます。 講義で扱う領域は広範でしたので、昨年同様に重要な疾患や過去に国家試験で出題されたことを重点的に、臨床現場での体験をできるだけ織り交ぜながら解説するように心がけました。講義スライドや資料なども、昨年の内容を再度吟味しなおして講義に臨みました。講義ではあまり細部にこだわりすぎずに話すように努力しました。また重要なポイントとなることは初出の時だけでなく、後日の講義で関連する事柄を話す時などに織り交ぜながら繰り返し話しをするようにしました。限られた時間の中で知識の説明に追われるところはありませんでしたが、受講する学生さん達にいろいろと考えてもらう機会になってくれればと思います、医療現場での様々な問題点などについても出来るだけの話をすようにしました。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験と授業貢献度の総合判定で、平均値は87.3点(最高100点・最低54点)でした。秀：41名、優：20名であり、多くの学生さんが高得点という結果でした。また到達度自己評価でも「コミュニケーション力や表現量を高める（平均値3.5、中央値3.0）」以外の項目で「まあまあそうだと思う」以上の評価をした学生さんが大多数でした（平均値4.0-4.5、中央値4.0-5.0）。意欲感心については受講動機では「関心のある内容だから」が24.0%（12/50）あり、「授業の課題以外に学習に取り組んだ」割合が48%（24/50）程度ありました。意欲関心についてはやや達成されたと考えています。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門教育科目」の「保健・医療関係科目」です。本科目は必須科目であり、取り扱う基礎的な医学、医療の知識は、保健。福祉、保育といった福祉学科の扱う様々な専門科目の内容と密接に関連しており、学生さんがこれから先の教育過程を学ぶ上で必要な素養であるといえます。国家試験にも出題されますので、早くからの学習は効果的と考えます。学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価等からみて、カリキュラムマップ、CP、DPにおける位置づけとして内容的妥当性に問題はないと考えます。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの「授業の質」の評価からは、多くの項目で「まあまあそうだと思う」以上の評価がありました。一方で「学生参加の機会」の評価が低かったのは、知識を伝える系統講義であったからと考えています。昨年と同じく講義の際に質問の受け付けを呼びかけましたが、講義中に直接質問することは難しかったかもしれません。そのため本年度はclassroomを通じての質問もお受けすることにしましたが、実際に使われることはありませんでした。講義終了後に個別の形でですが質問をしてくれる学生さんも時折いましたので、質問内容次第では次の講義の際に補足でお話することも出来ました。学習量については、あまり予復習に時間を充てなかったと回答した学生さんが半数程度という結果でしたが、個別の回答では講義での内容や復習用の問題プリントを解くことで十分だったとの意見が複数寄せられました。他の教科の学習に時間必要ですので、知識がある程度講義の中で消化され、特に学習時間の必要がなかったのであれば十分だったと考えています。その上で更に意欲的に学習時間をもってくれた学生さんもいたことは嬉しいことでした。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	国家試験に合格するためには過去問の理解が不可欠ですので、昨年に引き続き過去問を中心とした試験としました。試験についての昨年からの変更点としては、昨年はすべて過去問のままで出題したところあまりに高得点に分布したため、今回は一部の問題で選択肢や設問内容を変更して出題しました。その結果、得点の分布がある程度分散しました。学習と理解の程度がより適切に反映される試験内容になったと考えています。また、多くの学生さんが初回試験で合格点に到達しており、難易度的にも適切であったと考えています。本科目は、医療、福祉分野で扱う様々な疾患を理解するうえで基礎となるものです。この講義が皆さんのこれからの学びのきっかけになってくれたら嬉しく思います。また講義内容に対する質問のことで既述しましたが、学生さんにとっては質問をすることで講義内容のより正確で深い理解につながりますし、質問を受ける側にしても新たな気づきや講義内容への大切なフィードバックになります。多くではありませんでしたが、授業アンケートの個別の意見でも「講義内容が難しく理解が十分でできなかった。」との意見もあり、まだまだ説明が不十分なところがあったと反省しています。是非積極的に質問をする姿勢をもってもらえればと思っています。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、メンタルヘルス(精神保健)に関する現象・問題等を体系的に捉え、対応策や予防策を見出していくための学問となる。地域生活を営む上で、メンタルヘルス(精神保健)の課題がどのようなものが存在し、どのような支援が現代社会において求められているのかについて、福祉専門職の立場から講義を展開する。具体的には、講義による学び、映像視聴、学びを踏まえた意見交換やグループディスカッション等の方法を用いる。講話法を中心とした講義の展開が主であった。現代の精神保健の課題は、福祉専門職のみならず、教職・保育等においても横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本科における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。本講義の特性上、地域福祉に係る知識の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本年度は、全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、（3）「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」、（4）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.4と最も高かった。次に（5）（9）（10）の順であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、現代における精神保健の課題と支援についての知識を、学ぶ内容である。精神保健の課題と支援、法制度、近年の取り組みなどについては、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、精神保健福祉士の社会的な役割をはじめとして社会福祉士、養護教諭、保育士の役割も併せて示すことで、今後も学生の学びを促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、精神保健の課題と支援、法律・制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「精神保健福祉専門科目」では、精神保健福祉の実践の展開を学ぶ位置づけであり、選択科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は地域における精神保健の課題と支援の現状を踏まえて、精神保健福祉士をはじめとして、養護教諭、保育士等の役割、支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次後期の「現代の精神保健の課題と支援Ⅱ」に向けての横断的な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による精神保健の実情(福祉的課題、動向等)、福祉法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2023年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、動向等)、福祉法制度・サービスの動向等についての表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.9と全体数値よりも低かった。本科目は現代社会における精神保健の課題と支援に関する現状を踏まえて、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の精神保健福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。そのため、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.9と全体数値よりも低かった。しかしながら、本科目は講義科目である性質を踏まえ、前期において可能な限り、現代社会が抱える精神保健の課題と支援について教授するとともに、後期の「現代の精神保健の課題と支援Ⅱ」の学びへとつなげられるよう、基本的な知識等を教授した。レジュメ資料・映像資料等を通して伝えることができたと考える。より学生の学びの理解を深めるためには、前記のように学生の考え、話し合い、発表する機会を設けるための工夫を今後も行っていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教職の歴史的変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。 ④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	①評価は、2度の小テスト、長短の数度のレポート提出の合計点で行った。前半の教師の服務についてなどの理解は、筆記試験で確認する必要があり、今年度より小テストを実施し、理解の定着を図った。 ②90点以上3名、80点以上90点未満9名、70点以上80点未満15名、60点以上70点未満10名、不合格（60点未満）2名、平均74.7であった。成績としては全体的に高めであるが、とびぬけた学生が数名いる一方で、一部に意欲が低い学生が見受けられる。 ③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。 ④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性については問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①毎回の事ではあるが、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、昨年同様に前半と後半で学生の態度に違いがあった。やはりグループワークを取り入れ具体例を考察した後半が反応がよかった。 ②次年度からは、自らの課題と感ずることが出来るような授業構成と方法を改善したい。 ③次年度では、学生の関心が高いスクールソーシャルワーカーを外部講師として招きたいと考えている。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。（客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる）授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3	前期	選択	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学習指導要領における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心としながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。 ②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。 ③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業後の振り返りシートの内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上を獲得した学生が44名中26名であり、そのうち80点台が5名、90点以上が11名だった。また、到達度自己評価においては、すべての項目で平均値が4.3～4.8と高い値を示し、学科平均と比べてもすべてにおいて上回っていた。特に（5）（7）（8）の項目では学科平均値より0.6ポイント、他に項目においても0.3～0.5ポイント上回っていた。したがって、上記観点のうちDP1、DP2、DP5共に「達成」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	卒業後、学校や家庭・地域の実態や児童生徒の傾向性を考慮して指導に当たる養護教諭をめざす学生にとって、学校経営や教科横断的な健康教育と密接につながっている特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容は非常に重要である。したがって、学生には専門分野に限らず学校全体や教職全般への関心を持ち続けることが求められる。そのような意味から、学生の自己評価での項目の中で、（６）「関心・意欲」や（１０）「職業選択の参考」が高い評価だったことは教職課程における内容としての妥当性は高いと判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」においては、各項目の平均値がすべて学科の平均値を超えていた。特に項目の（４）（５）は0.6～0.8ポイントも高かったが、その要因としては毎回の授業の振り返りを着眼点ごとに分類整理し、それにコメントを加えて次の授業の冒頭で共有する時間を設定していたことによるのではないかと考える。 また、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料を活用しながら授業を進めたことは、授業の質評価項目の（３）「説明の理解しやすさ」の評価にも繋がっていると思われるし、自由記述欄においても「将来、特別活動の充実によって学校をよくしていきたい。」といった感想もあることから、今後もその点に関しては重視していきたい。 さらに、授業後の振り返りシートの中のコメントの中に「この授業を通して教師になりたい気持ちがより高まった。」といった感想もあったことなどから、今後の授業の中でも体験談や学校現場の実際について効果的に取り上げられるように工夫し、教職への志望意欲をより一層高められるように努めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	将来、養護教諭をめざす学生であるため、特別活動においては健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。 次年度も、特別活動及び総合的な学習の時間の本質を的確に理解できるようにするとともに、教職課程の授業として、教職への意欲を喚起し、より実践的な資質能力態度が向上するように、一単位時間の授業展開に関してもさらなる工夫改善に努めていきたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別支援教育論	3	前期	選択	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科の教育内容で「障害」についての若干の予備知識があることを前提に授業を実施した。この障害児者福祉に関する予備知識と特別支援教育との関係性についても理解が深まるように授業内容を準備した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	教科書・資料持ち込み可で定期試験を実施した。授業で強調した特別支援教育に関する基本的な内容を問い、40%の学生は到達目標（90%以上）をクリアしたが、成績にばらつきがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性があると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業開始時に質問等の方法について案内していたがその機会がないとしている学生がいたので、案内の方法を工夫する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業理解の達成基準として90%を想定したが達成できたのは40%の学生であった。教科書の予復習を含めて大半の学生が到達目標をクリアできるように授業の改善を図りたい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。 ②全体を、教育方法の歴史的変遷、学習指導要領の変遷などの基礎的知識理解を深める部分と、教育方法の理論にしたがったさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。 ③具体的な実践について、学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。 ④グループワークの実践的力量をつけるために、主にKJ法を用いた演習を実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①評価は、数度のレポート提出の合計点で行った。 ②90点以上なし、80点以上90点未満24名、70点以上80点未満13名、60点以上70点未満5名、不合格2名、全体の平均点は77.3点であった。やや低調な成績だと考える。とびぬけた成績の学生もいなかった。 ③基本的に「知識理解」のみの評価基準であり、多人数かつ複数学科の学生により構成されているので「態度」を判定することは困難である。 ④「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。 ⑤グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、3年生の場合これまでの高校から大学入学までオンライン授業中心であったことから対面での授業を嬉々として楽しんでいる雰囲気があった。しかし一部には、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的妥当性については問題ないとする。 ②DPについて 教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎回のことから、授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①2年時に履修した科目に引き続き、教職に関する専門科目としてはかなり専門的内容を含んだものである。これまでの学生自身の教育・学習体験を相対化、理論化できるようにとのねらいから取り組んだグループワークによる具体例の検証は、学生の反応がよかった。やはり「教育方法」という科目は、それ自身が教育実践として学生に提示されてしかるべきものであると改めて認識した。 ②次年度からは、授業内容をさらにバージョンアップして、授業を通して学生自らの課題と向き合うことが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差，S，A，B，C，Dの度数），独自に設けた基準による達成度，学生の授業評価アンケートの結果など，できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	○2022年度 全体平均77.8、福祉学科平均76.9、秀16.7%、優39.6%、良29.2%、可4.2%、不可8.3% 標準偏差12.61 ○2023年度 全体平均81.5、福祉学科平均83.2、秀50.0%、優25.0%、良16.7%、良5.6%、可0.0%、不可2.8% 標準偏差13.08 ○本年度は全学科平均より学科平均が高く、秀が35ポイント増えている。可と不可の合計も10ポイント減少している。 ○本年度は合格基準となる形式面の完成度だけでなく、内容面で優れた学習指導案が目立った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 ○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。 ○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。 ○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。 ○実際の授業記録動画の視聴を課題とし、その上で授業中に動画を再生・解説するなど、実際の授業の雰囲気や教師の具体的指導方法の習得に務めた。 ○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができた授業としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○達成状況は非常に満足できるレベルにある。 ○学習指導案提出者のレベルが高い一方、出席回数不足の者も4名いた。授業としては、動機づけの工夫を行うが、教職課程履修全体の指導も併せて行う必要があるだろう。 ○授業実践動画の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。

リフレクションカード 2023年度前期

学科	福祉学科
氏名	秋山 俊史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①全国的に教員希望者が減少しており、教育界にとっては大変憂慮すべき状況の中、約87%の学生が「資格取得に必要である」約28%が「関心のある内容である」と考えており、目的意識が大変高いことがうかがえる。そのため学校における生徒指導の実情とその対応について、事例などを織り交ぜながら実践的に学べるようにした。 ②基本的な教育法規や教科書、資料に示される内容の解説はもちろん、自身の教員や指導主事としての経験から得たより実践的な対応を示しながら、授業を展開した。 ③また教師は、生徒や保護者、地域との良好な人間関係を築くためのコミュニケーション力が求められるため、授業では学生自身が気づいたこと、感じたことなどを振り返るための「授業のまとめ」を毎時間提出させた。さらには、問われていることの意味の理解力や自分の考えをまとめ、伝えることのできる説得力などを身に付けるため採用試験における小論文対策のための指導と併せて定期試験を含む3回の小論文実践をおこなった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86.8点であり、再試験者は0名であった。理想的レベル（概ね75点以上）を上回る結果であった。 本科目の試験は小論文であるため、与えられたテーマや課題に対しての知識や理解度とともに、自分の思いや考えをわかりやすく表現する文章表現力や説得力を評価するものである。講義の中で小論文の書き方指導を得て、2回にわたる論文小テストを繰り返し実施した。その結果、回を重ねる毎に学生の論作技能の向上が見られるようになった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、教員免許の取得に向けた内容であり、教職課程では必須である。全ての学生が教職の道に進むとは限らないが、学生の目標に応えるために、学校現場の生の状況に触れることで対応や指導方法を学ぶことができる授業であり妥当性があるものとする。 ②DPからみての内容的妥当性 先述したように、成績評価は論文や毎時間の振り返りレポートの記述を通して、教師として必要な判断力、表現力、説得力などの向上度合いを示すものであり、併せて養護教諭としての更に専門的な知識を表現する必要があり、全ての学生の評価は確実に上がったことから内容的に妥当であったと考える。 ③自由記述からは、「養護教諭を目指すうえで、養護教諭の役割であったり対応において必要なことであったりをしっかり学ぶことができ、考え方が変わりました」などがあり、教師を目指して努力する学生の一助になったのではないかと考える。 ③まとめ 以上のようなことから、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全ての項目で平均が4.3～4.6と比較的高かった。これは、担当教員が振り返りレポートでの学生からの質問や意見に対して回答やコメントを記述しコミュニケーションを図ったことや、授業では学校現場における生徒指導の現状と対応について担当教員の経験を踏まえて伝えてきたことが要因であると考えられる。さらに、本年度から事例研究として「グループディスカッション」を取り入れ、自分の考えをはっきりと伝えること、他人の意見を聞いて視野を広めることなど教師として必要なことを学ばせたことは効果的であった。 反面、全ての項目に対して「少しそうでないと思う」という回答があった。小テスト評価の説明やグループディスカッションの方法など、細かい部分で丁寧な説明と配慮が必要であると感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本年度が担当初年度であるため、多少戸惑いを感じながら授業を進めてきたが、教師を目指し真剣に講義を受ける学生の姿を見ると、更に内容を工夫して、現場で即戦力となる教師の育成に努めなければならないと強く感じた。 「3. 授業準備について」で記述したように、昨今教師の業務の大変さから志願者が激減しているが、教師は子どもたちの成長する姿に感動することができ、その瞬間に関われるというやりがいのある職業であることを伝えてきたつもりである。今後学生が「何となく」ではなく「絶対教師になりたい」と思えるような授業を展開してまいりたい。